

令和3年度  
市民活動団体活動状況調査事業  
報告書

令和4年3月

NPO 法人えべつ協働ねっとわーく

理事長 奈良 幸則

〒069-0824 江別市東野幌本町6番地43

市民交流施設「ぷらっと」内

江別市民活動センター・あい

## <目 次>

1. 調査の概要 .....	01
2. 調査結果からの所見 .....	02
3. 調査結果の概要 .....	03
4. 調査結果の内容	
(1)団体の概要・会員について.....	05
(2)団体運営.....	12
(3)活動内容について.....	16
(4)コラボのたねについて.....	24
(5)行政等、他団体との協働・連携について.....	25
(6)市民活動の促進について.....	32
(7)協働のまちづくり活動支援事業について.....	35
(8)江別市民活動センターについて.....	37
(9)認定 NPO 法人制度について.....	41
(10)その他.....	42
資料 1 平成 13 年～令和 4 年の調査結果との比較.....	45
資料 2 調査票.....	49

## 1. 調査の概要

### (1) 調査の目的

本調査により市民活動団体の活動状況や課題等の把握を行い、支援方法や協働のあり方の検討に役立てるための基礎資料を得ることを目的とする。

### (2) 対象団体

前回調査の対象となった団体リストを元に、追加となった団体や解散した団体の情報を加え、選定した。

### (3) 調査対象の範囲

対象団体として、江別市民を対象に活動する団体、市内に事務所（活動拠点）を置く団体、市内を活動場所としている団体で「継続的、自発的に社会的活動を行なう営利を目的としない団体」を調査対象とした。なお、次の①から③の団体は対象外としたが、本来の活動以外にボランティア活動など社会的活動を行なっている場合は対象とした。

- ①特定非営利活動法人（NPO法人・一般社団法人）以外の公益法人等（財団法人、商工会議所、医療法人、社会福祉法人、宗教法人、労働組合等）
- ②有限会社、株式会社、協同組合等の法人格を持つ団体
- ③その他の団体（消防団、民生委員協議会、自治会、PTA、同窓会等）

### (4) 調査時期

2022年(令和4年)1月

### (5) 調査方法

対象団体に対して郵送で調査票を送付し、指定した返信用封筒で郵送にて回収した。

### (6) 回収結果

- ・調査対象団体（グループ）：190
- ・回答団体（グループ）：106（回収率：55.8%）  
（内、団体の解散予定等の理由による回答拒否または白紙回答：3件）

### (7) 集計にあたって

回答率（%）は、その設問の回答数を基数として算出した。設問毎の無回答は有効回答数に含めなかった。

## 2. 調査結果からの所見

この調査は、平成13年より4年おきに実施され、今調査で6回目となる。調査開始から21年を経て、市民活動を取り巻く状況にも変化があり、それによって市民活動の現場がどのように影響を受けているのか、抱えている課題にどのような変化があるのかを今調査により把握し、活動の促進に向けた支援方法検討の一助となることが期待される。

会員の数、年齢、性別といった団体の基礎となる会員構成については、資料1の過去との比較にまとめたが、ここで簡略にまとめると、40代の市民活動への参加が増えているものの、会員数が減っている団体が増えており、さらに、年齢は高年齢化の傾向が見られ、性別は男性が減少する傾向にある。会員数の減少により、事務的負担が主となる会員に集中してしまい、活動のさらなる停滞に繋がることが考えられる。課題となる新規会員の獲得、活動に深く関わる会員を増やす取り組みを進めることが求められる。

団体の活動状況では、活発・やや活発と回答した団体が前回調査より24%も減少し、停滞と回答した団体は10%も増加している。新型コロナウイルスの影響により、活動を継続することが困難になっていることが影響しているものと思われる。

場所に関する悩みも会合や活動場所の確保が難しいと回答する団体が最も多く、活動をしたくても停滞・休止・解散せざるを得ない状況にあると考えられる。

コロナ禍における市民活動団体の活動として、オンライン開催やZoom等での会議が考えられるが、ブログやSNSを活用していると回答した団体は僅か17団体と、デジタルを活用していない団体も多い。パソコンやスマホを活用出来ない、抵抗感があるというのが主な理由になるかと思うが、得意とする会員の獲得に加え、利用を啓発していく努力の必要性も感じる。

協働・連携では、多くの団体が実績を持ち、今後も取り組んでいきたいと考えている。また、市民活動団体同士の連携も増えてきている。地域課題には、単独団体の枠を超えた協働・連携が無ければ解決できないことも多いため、そうした動きに積極的な団体が多いため、今後は連携出来る団体のマッチングがさらに重要になると考えられる。

市民活動の拠点として整備され、15年が経過しようとしている江別市民活動センター・あいについては、認知度・利用者数の割合は上昇しており、同施設が市民活動に必要な存在であることが窺える。しかし、その利用目的のうち最も多いのが会議室の利用、印刷機等の利用であり、NPOや市民活動の相談、交流会への参加などが多くない現状であることから、中間支援団体としての機能を高める必要が求められる。

### 3. 調査結果の概要

#### ①活動団体数：増加しているものの活動が停滞

前回の調査（2017年9月）以降設立された団体は7団体であり、2020年4月以降は3団体設立されている。また、活動状況についての質問では、回答者の約62%が「活発」「やや活発」と回答しており前回より大きく減少している。「停滞」と回答した団体が23.8%で前回の14%から増加している。解散と回答した団体は7団体ある。

#### ②活動分野：複数分野での活動が主

活動分野の傾向は前回調査とほぼ同様で、社会教育・生涯学習が最も多い。文化の活動分野が前回調査よりも増えている。

#### ③会員構成：高齢化が進行

会員数は「1～10人」「11～50人」「101～500人」の団体が増加しており、「11人～50人」の層が一番多いことに変化はなかった。

男女比については、男性の参加率は増加しているものの、「6～8割が女性」の団体が、調査以来増加傾向にある。また、「男女半々」は約8.8%増加している。会員数の推移に関しては「減っている」が48.6%と最も多くなっている。会員の年齢層は、活動の主は40代が増えている一方、70代以上も14.8%も増えており、前回調査からの高齢化が見られる。職業では「会社員」が前回調査よりも減少している。

#### ④団体運営：運営の低予算化が進行している。

活動資金は、100～500万円未満の団体が2.6%増加し、500万円以上の団体は僅かに減少し、前回調査よりもさらに低予算化が進んでいる。

その資金源としては、会費収入が33.7%と最も多く、前回調査と同様の傾向である中で行政や民間からの補助金・助成金で財源を確保している団体が増えている。

常勤スタッフの配置は17.7%と前回調査より1.3%減っており、人件費は0円～5万円が約18%も上昇していることから、全体的に安定した活動資金を確保することが出来ていないと思われる。

#### ⑤活動の悩み：多様な人材の悩みを抱えている

団体の一番の悩みとして、人に関する悩みが挙げられ、前回調査よりも約14%増加し、88.7%があると回答している。会員数そのものの悩みに加え、後継者不足、高齢化・男女の隔たりについて悩んでいる団体が多い。情報に関する悩み、お金に関する悩みについても前回調査同様に半数近くが悩みを持っており、活動に参加したい人の情報、PRするための手段、活動資金の不足がなお課題として挙げられる。

⑥活動情報の発信：手段は多様化しつつも、情報のデジタル化に追い付いていない

団体の情報については、会報、インターネット、新聞、イベント等、各団体で発信を行っており、それぞれの頻度も複数回行っているとの回答が最も多かった。

インターネット（ホームページ・ブログ・SNS）の活用は約2%上昇しているが、約30%のみの利用になっており、SNSの活用も10.2%と、今後、情報発信のデジタル化をさらに進める必要がある。

コラボのたねの認知度は聞いたことはあるが内容は知らないと回答した団体が15.3%あり、よりコラボのたねについて周知を進める必要がある。また、登録したくないとの回答は前回同様で、登録の利点を感じない、既に団体のホームページ等を持っているとの回答が6割以上を占めた。

⑦協働・連携：多くの団体で組織的な協働・連携が行われ、今後もそうした取組を希望

協働・連携の実績は約84%の団体で有し、日頃から組織的に協働・連携を行っている団体は2%増加している。

協働・連携先としては、行政に並んで市民活動団体が多く、市民活動団体同士の横のつながりを意識した活動をしていることが伺える。今後、行政または他の団体と協働・連携して取り組みたい活動があるか尋ねたところ、あると回答した団体が約5%増加している。

⑧今後の活動促進：資金・人員・時間の問題が活動促進の障害となっている

行政に求める事は広報・普及活動や活動資金の助成が約28%と前回調査とほぼ同様の結果となった。

新たに、市民活動団体版出前講座について尋ねたところ、認知度は約83%と高いが、「登録したくない」と「わからない」を合わせると70%以上を占める。理由としては人員がない、時間がないなどが多くを占めている。

協働のまちづくり活動支援事業を受けてみたいと希望する団体は前回調査とほぼ変わらず、申請や審査の手続きが簡単であればを受けてみたいと回答している団体が多い。

⑨活動の場：市民活動センターのニーズを高める

市民活動センターを利用したことがある団体が前回調査より約8%増加し、今後利用してみたい団体が9%の上昇となっており、年3回以上利用している団体が半数以上を占めている。主に、会議室の利用と印刷機等の利用であるが、設備や時間等のニーズに応えられていない部分もある。

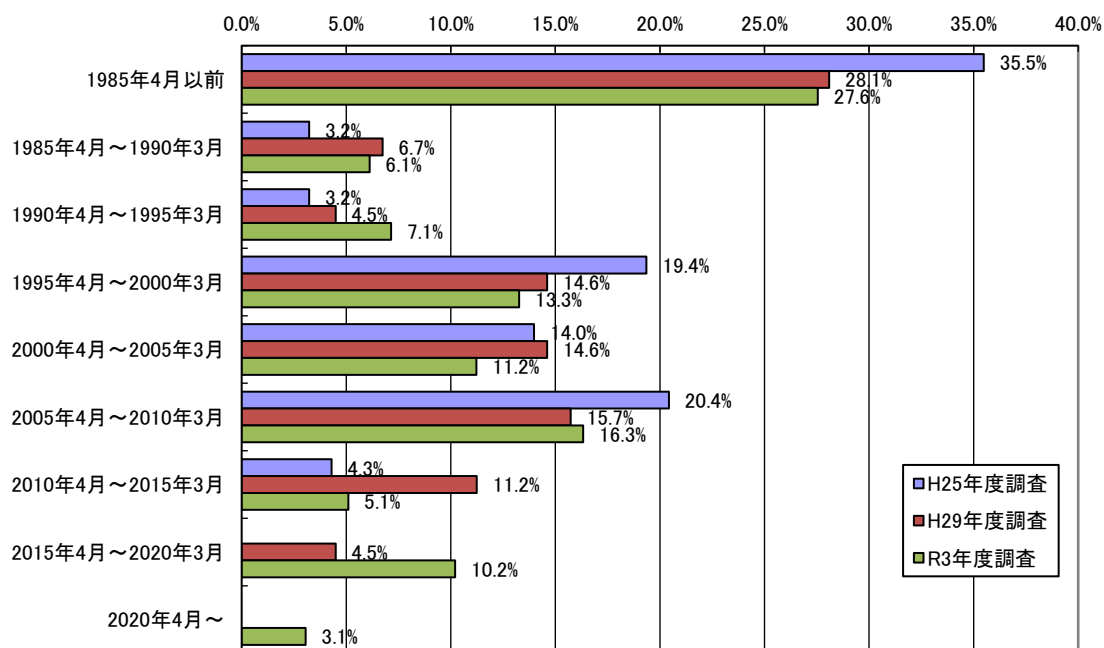
#### 4. 調査結果の内容

##### (1) 団体の概要、会員について

【紹介表①】 団体の設立年月と設立数

項目	回答数	率
1985年4月以前	27	27.6%
1985年4月～1990年3月	6	6.1%
1990年4月～1995年3月	7	7.1%
1995年4月～2000年3月	13	13.3%
2000年4月～2005年3月	11	11.2%
2005年4月～2010年3月	16	16.3%
2010年4月～2015年3月	5	5.1%
2015年4月～2020年3月	10	10.2%
2020年4月～	3	3.1%
合計	98	100.0%

団体基本概要：団体設立年H25年度、H29年度、R3年度比較



1985年4月以前、及び1995年4月～2000年3月から活動している団体は、前々回調査から減少傾向になっている。また、2010年4月～2015年3月から活動している団体が前回調査より6.1%減少した。2015年4月以降から活動している団体は前回調査と比較し、約8.8%増加した。

【紹介表②】 会則の有無

項目	回答数	率
有り	85	87.6%
無し	12	12.4%
合計	97	100.0%

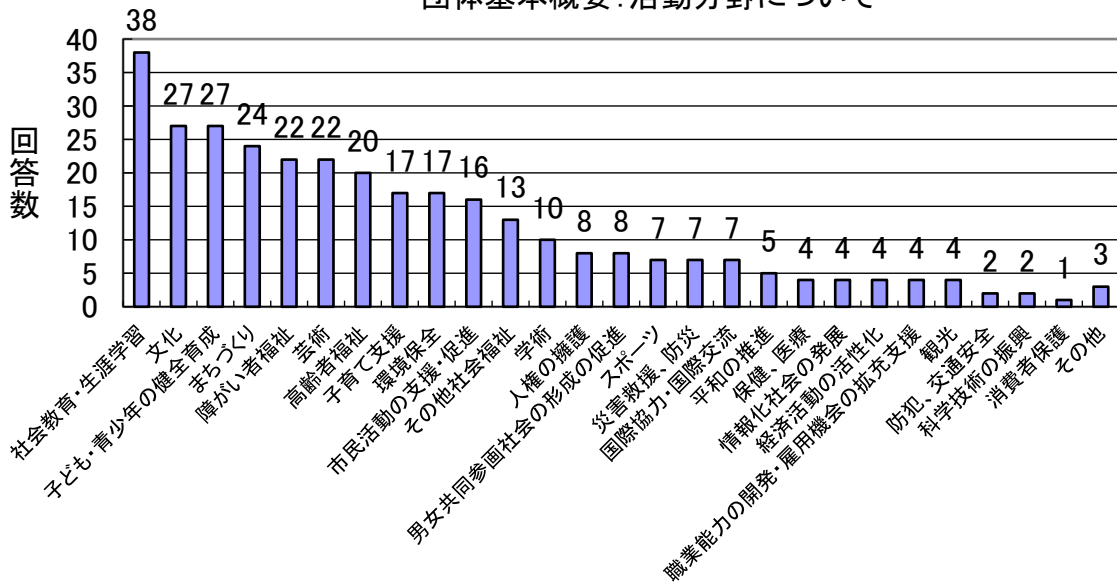
会則のある団体の割合が、前回(85%)より微増しており、多くの団体が活動方針等を明確にしている。



【紹介表③】団体の活動分野について

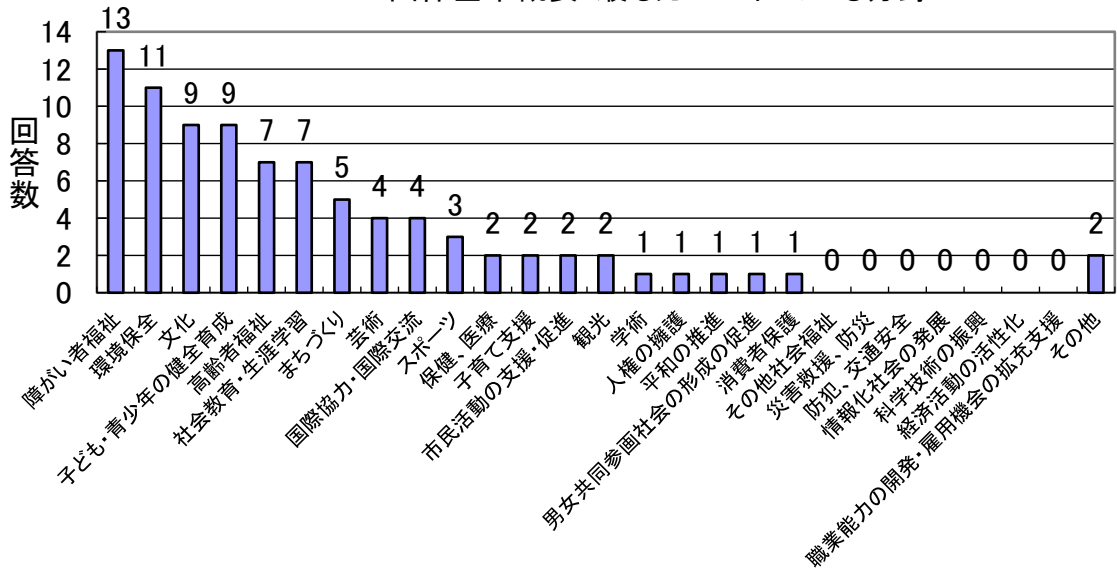
活動区分	全て(複数回答可)		最も力を 入れている	
	回答数	率	回答数	率
社会教育・生涯学習	38	11.8%	7	8.0%
文化	27	8.4%	9	10.3%
子ども・青少年の健全育成	27	8.4%	9	10.3%
まちづくり	24	7.4%	5	5.7%
障がい者福祉	22	6.8%	13	14.9%
芸術	22	6.8%	4	4.6%
高齢者福祉	20	6.2%	7	8.0%
子育て支援	17	5.3%	2	2.3%
環境保全	17	5.3%	11	12.6%
市民活動の支援・促進	16	5.0%	2	2.3%
その他社会福祉	13	4.0%	0	0.0%
学術	10	3.1%	1	1.1%
人権の擁護	8	2.5%	1	1.1%
男女共同参画社会の形成の促進	8	2.5%	1	1.1%
スポーツ	7	2.2%	3	3.4%
災害救援、防災	7	2.2%	0	0.0%
国際協力・国際交流	7	2.2%	4	4.6%
平和の推進	5	1.5%	1	1.1%
保健、医療	4	1.2%	2	2.3%
情報化社会の発展	4	1.2%	0	0.0%
経済活動の活性化	4	1.2%	0	0.0%
職業能力の開発・雇用機会の拡充支援	4	1.2%	0	0.0%
観光	4	1.2%	2	2.3%
防犯、交通安全	2	0.6%	0	0.0%
科学技術の振興	2	0.6%	0	0.0%
消費者保護	1	0.3%	1	1.1%
その他	3	0.9%	2	2.3%
合 計	323	100.0%	87	100.0%

団体基本概要:活動分野について



「社会教育・生涯学習」の活動分野が最も多く、次いで「文化」「子ども・青少年の健全育成」となっている。

団体基本概要:最も力のいれている分野



最も力を入れている活動は、「障がい者福祉」が最も多く、「環境保全」が次いで多くなっている。

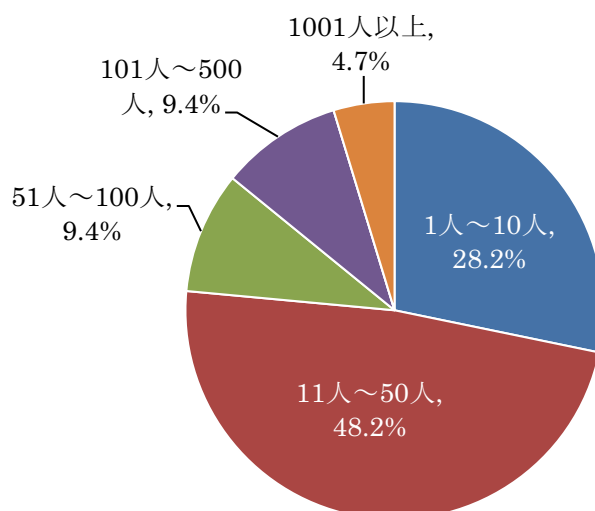
【紹介表④】活動対象地域

項目	回答数	率
江別市内	46	49.5%
江別市内及び近隣市町村	34	36.6%
北海道内全域	3	3.2%
国内全域	6	6.5%
その他	4	4.3%
合計	93	100.0%

活動対象地域は、江別市内が最も多く、次いで近隣市町村が多いのは前回調査と同様である。

【紹介表⑤】会員数

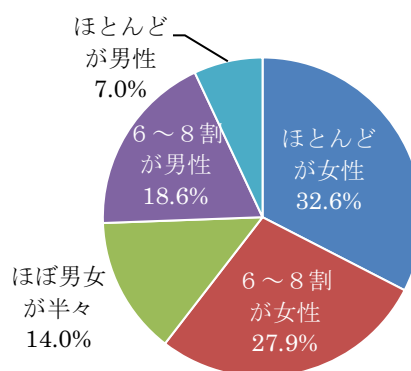
会員数	回答数	率
1人～10人	24	28.2%
11人～50人	41	48.2%
51人～100人	8	9.4%
101人～500人	8	9.4%
501人～1000人	0	0.0%
1001人以上	4	4.7%
合計	85	100.0%



会員数が、1～10人、11～50人、101～500人の団体で増加が見られ、特に「1～10人」、「11～50人」が約3～4%の増加となっている。51～100人、1001人以上の団体が減少しており、特に51～100人の団体は約6%減少している。

【紹介表⑥】 会員の男女比

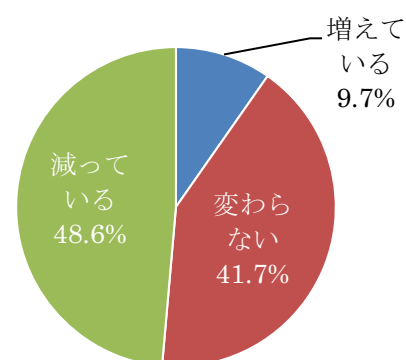
項目	回答数	率
ほとんどが女性	28	32.6%
6～8割が女性	24	27.9%
ほぼ男女が半々	12	14.0%
6～8割が男性	16	18.6%
ほとんどが男性	6	7.0%
合計	86	100.0%



会員の男女比について、「ほぼ男女が半々」が約9%の増加、「ほとんどが女性」が約12%減少となっている。

【紹介表⑦】 会員数の推移

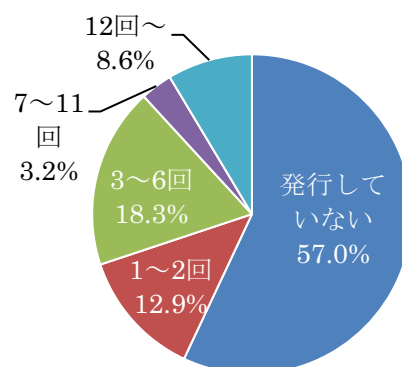
項目	回答数	率
増えている	7	9.7%
変わらない	30	41.7%
減っている	35	48.6%
合計	72	100.0%



会員数が「減っている」団体が多く、「増えている」団体よりも約39%多い。

【紹介表⑧】 会報の有無

項目	回答数	率
発行していない	53	57.0%
1～2回	12	12.9%
3～6回	17	18.3%
7～11回	3	3.2%
12回～	8	8.6%
合計	93	100.0%



会報を発行していない団体が約半数以上を占めている。

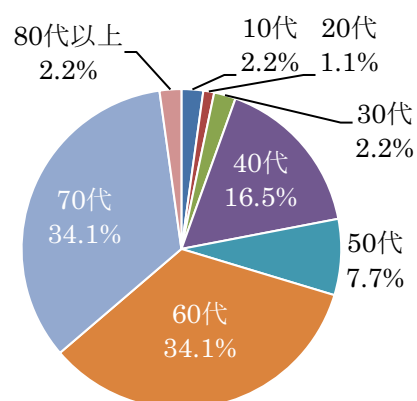
### 1-1-1. 会員の年齢幅

項目	何歳から		何歳まで	
	回答数	率	回答数	率
0-10才	7	7.9%	0	0.0%
11-20才	8	9.0%	0	0.0%
21-59才	53	59.6%	5	5.6%
60才-80才	21	23.6%	51	56.7%
81才以上	0	0.0%	34	37.8%
合計	89	100.0%	90	100.0%

前回同様、会員の年齢幅の傾向は21才-80才までであるが、81才以上までいる団体も増加している。

### 1-1-2. 会員の年齢（最も多い年代）

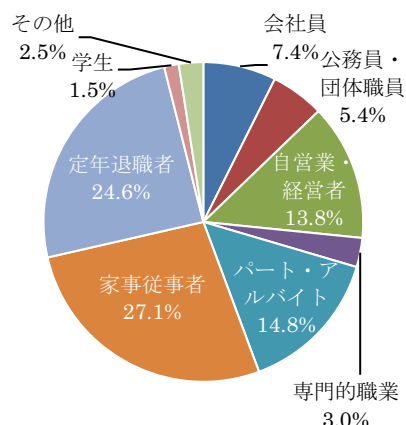
項目	回答数	率
10代	2	2.2%
20代	1	1.1%
30代	2	2.2%
40代	15	16.5%
50代	7	7.7%
60代	31	34.1%
70代	31	34.1%
80代以上	2	2.2%
合計	91	100.0%



会員の年齢（最も多い年代）は、前回調査と比べ、20代は約3%減、50代は約7%減、60代は約6.8%減、30代は横ばい、それ以外は増加傾向で、10代は約1%、40代は約2%、70代以上が約15%の増加となっている。

## 1-2. 会員の職業

項目	回答数	率
会社員	15	7.4%
公務員・団体職員	11	5.4%
自営業・経営者	28	13.8%
専門的職業	6	3.0%
パート・アルバイト	30	14.8%
家事従事者	55	27.1%
定年退職者	50	24.6%
学生	3	1.5%
その他	5	2.5%
合計	203	100.0%

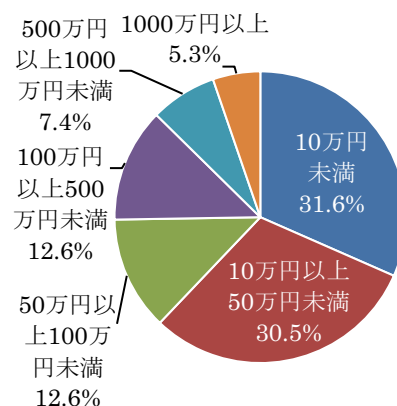


会員の職業は、「家事従事者」が27.1%と最も多く、次いで「定年退職者」24.6%、「パート・アルバイト」14.8%と続いている。

## (2) 団体運営

### 2-1. 年間活動資金

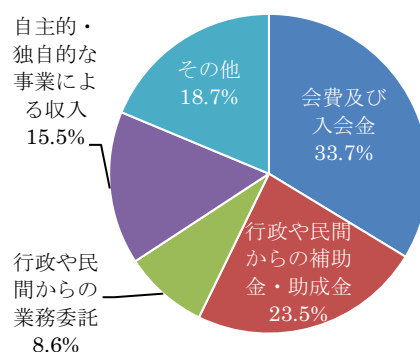
項目	回答数	率
10万円未満	30	31.6%
10万円以上50万円未満	29	30.5%
50万円以上100万円未満	12	12.6%
100万円以上500万円未満	12	12.6%
500万円以上1000万円未満	7	7.4%
1000万円以上	5	5.3%
合計	95	100.0%



団体の年間活動資金は、前回調査と比べ、「10～50万円未満」が約1%増加、「100～500万円未満」は約2%減少、「500万円以上1000万円未満」と「1000万円以上」を合わせると約1%増加となった。

## 2-2. 財源の割合（複数回答可）

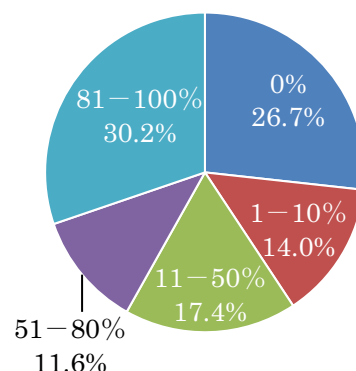
項目：総合	回答数	率
会費および入会金	63	33.7%
行政や民間からの補助金・助成金	44	23.5%
行政や民間からの業務委託	16	8.6%
自主的・独自の事業による収入	29	15.5%
その他	35	18.7%
合計	187	100.0%



団体の財源は、「会費および入会金」の割合が33.7%と最も多い。一方で、「行政や民間からの業務委託」は8.6%と最も少ない結果となった。

### ① 内訳：会費および入会金

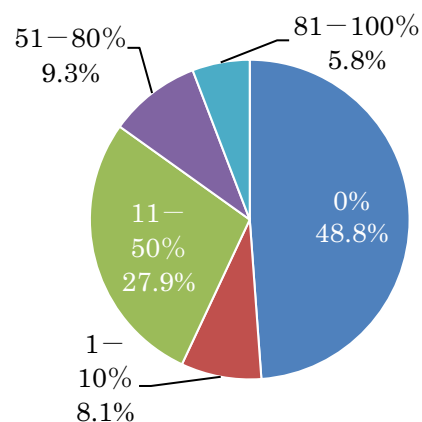
項目	回答数	率
0%	23	26.7%
1-10%	12	14.0%
11-50%	15	17.4%
51-80%	10	11.6%
81-100%	26	30.2%
合計	86	100.0%



会費および入会金が、「81-100%」と回答した団体が30.2%と最も多くなっている一方で、「0%」と回答した団体は26.7%と2番目に多い。

### ② 内訳：行政や民間からの補助金・助成金

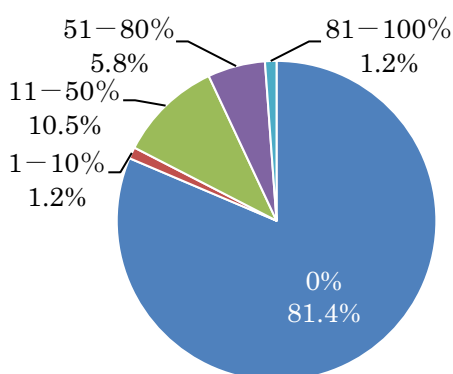
項目	回答数	率
0%	42	48.8%
1-10%	7	8.1%
11-50%	24	27.9%
51-80%	8	9.3%
81-100%	5	5.8%
合計	86	100.0%



行政や民間からの補助金・助成金が、「0%」と回答した団体が48.8%と最も多く、次いで「11%～50%」と回答した団体が27.9%となっている。

③ 内訳：行政や民間からの業務委託

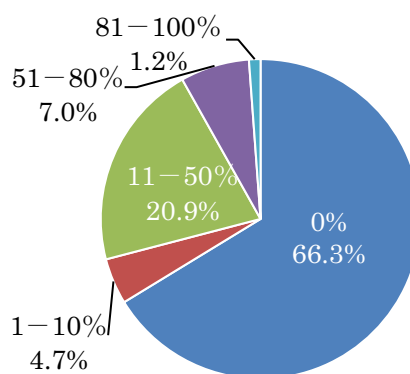
項目	回答数	率
0%	70	81.4%
1-10%	1	1.2%
11-50%	9	10.5%
51-80%	5	5.8%
81-100%	1	1.2%
合計	86	100.0%



行政や民間からの業務委託を受けている団体は、合計で約19%となっている。

④ 内訳：自主的・独自の事業による収入

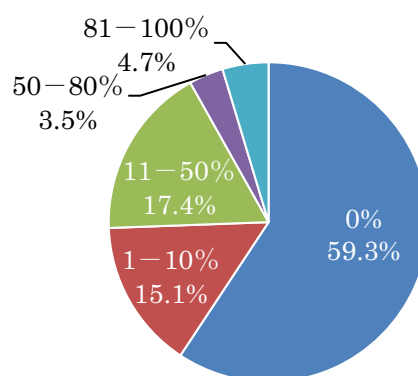
項目	回答数	率
0%	57	66.3%
1-10%	4	4.7%
11-50%	18	20.9%
51-80%	6	7.0%
81-100%	1	1.2%
合計	86	100.0%



自主的・独自の事業による収入が、「0%」と回答した団体が66.3%と最も多い。

⑤ 内訳：その他

項目	回答数	率
0%	51	59.3%
1-10%	13	15.1%
11-50%	15	17.4%
50-80%	3	3.5%
81-100%	4	4.7%
合計	86	100.0%

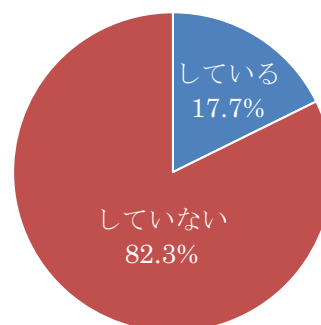


その他に財源を持つ団体は、「0%」と回答した団体が59.3%と最も多いが、次いで「1~10%」と回答した団体が15.1%、11%以上を占めている団体も17.4%あり、約4割の団体は上記以外の財源を確保していることが分かる。



### 2-3. 常勤スタッフの配置

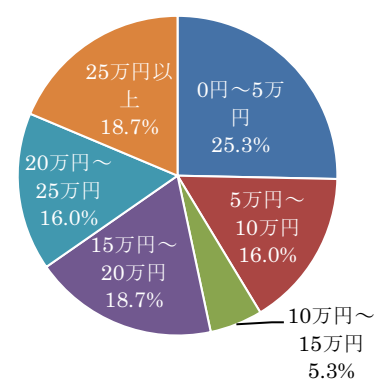
項目	回答数	率
している	17	17.7%
していない	79	82.3%
合計	96	100.0%



常勤スタッフを配置「している」と回答した団体が前回と比べ約 1.3%減少している。

### 2-4. 人件費

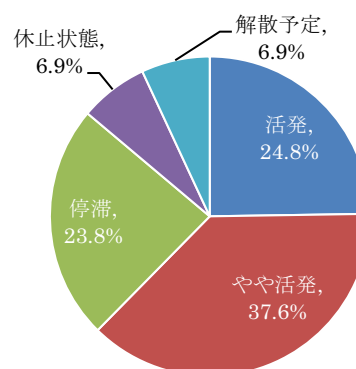
項目	人数	率
0円～5万円	19	25.3%
5万円～10万円	12	16.0%
10万円～15万円	4	5.3%
15万円～20万円	14	18.7%
20万円～25万円	12	16.0%
25万円以上	14	18.7%
合計	75	100.0%



人件費が、5万円～10万円と回答した団体が 25.3%と一番多く、次に 15万円～20万円、25万円以上と回答した団体が 18.7%と多かった。

### 2-5. 活動状況

項目	回答数	率
活発	25	24.8%
やや活発	38	37.6%
停滞	24	23.8%
休止状態	7	6.9%
解散予定	7	6.9%
合計	101	100.0%



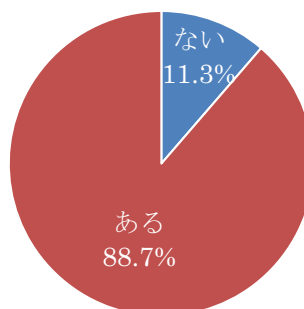
活動状況が、「活発」「やや活発」の割合を合わせると、約 62%となり、前回調査と比べて約 24%減、一方で「停滞」と回答した団体が約 10%増加した。

(3)活動内容について

3-1.活動する上での悩み

①人に関する悩み

項目	回答数	率
ない	11	11.3%
ある	86	88.7%
合計	97	100.0%

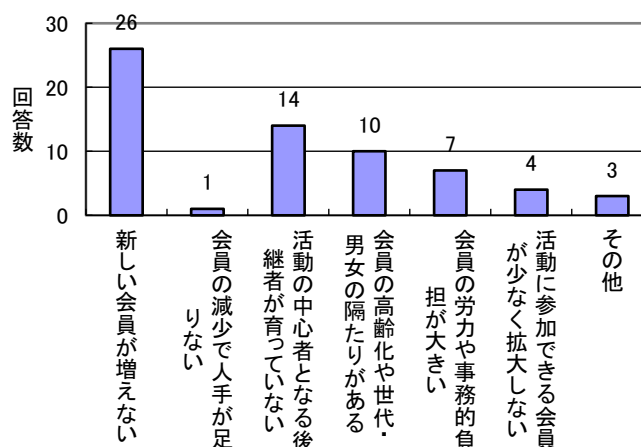


項目	一番目		二番目	
	回答数	率	回答数	率
新しい会員が増えない	26	40.0%	20	23.8%
会員の減少で人手が足りない	1	1.5%	4	4.8%
活動の中心者となる後継者が育っていない	14	21.5%	22	26.2%
会員の高齢化や世代・男女の隔りがある	10	15.4%	16	19.0%
会員の労力や事務的負担が大きい	7	10.8%	9	10.7%
活動に参加できる会員が少なく拡大しない	4	6.2%	11	13.1%
その他	3	4.6%	2	2.4%
合計	65	100.0%	84	100.0%

★その他

- ・ペアダンスでは、コロナ禍でソーシャルディスタンスが難しく、活動休止中である。(リモートも難しい)
- ・R3～常任理事を自治会と分けて輪番制に今後につながる事を望みます
- ・会員の高齢化が進んでいる為退会する人も多く、農家のお母さんが多く活動が冬期に偏ることも
- ・成人が減少

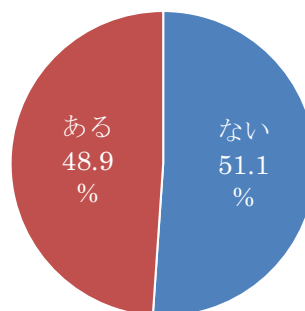
人に関する悩み:1番目の悩み



88.7%の団体が、活動する上で、人に関する悩みが「ある」と回答し、その一番目の悩みとして「新しい会員が増えない」が40.0%という結果となったが、これは前回調査の同様の質問に対する30%を上回った。二番目の悩みとしては、「活動の中心者となる後継者が育っていない」が26.2%の回答があった。

## ②情報に関する悩み

項目	回答数	率
ない	47	51.1%
ある	45	48.9%
合計	92	100.0%



項目	一番目		二番目	
	回答数	率	回答数	率
活動に参加したい人の情報が得にくい	15	38.5%	5	16.1%
他の団体情報が得にくい	2	5.1%	2	6.5%
補助金・助成金等の情報が得にくい	1	2.6%	1	3.2%
活動をPRする手段が少ない	10	25.6%	6	19.4%
ウェブを利用した情報発信ができない	5	12.8%	8	25.8%
他の団体との交流や情報交換の機会がない	2	5.1%	8	25.8%
その他	4	10.3%	1	3.2%
合計	39	100.0%	31	100.0%

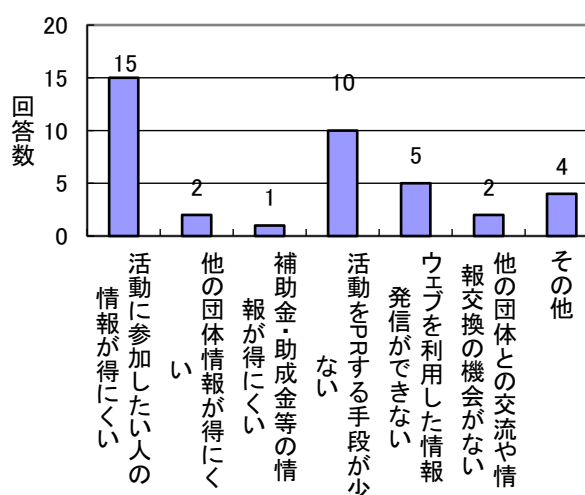
### ★その他

- ・全国組織の支部団体で、研修会などがネット利用になり、会員間の情報格差が大きい。又、パソコン利用していない会員への情報提供が遅れてしまう
- ・内部での情報交換が活発ではない
- ・IT 使える人が少数
- ・ウェブで発信しているが、ヒットしない。

活動する上で、情報に関する悩みが

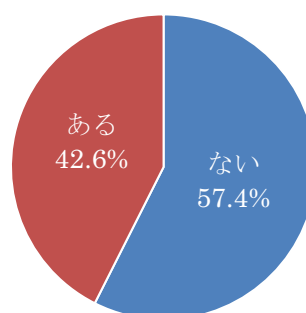
42%から増加している。「活動に参加したい人の情報が得にくい」を一番目の悩みとする団体が、前回と比べ 11%ほど増加した。

情報に関する悩み:1番目の悩み



### ③お金に関する悩み

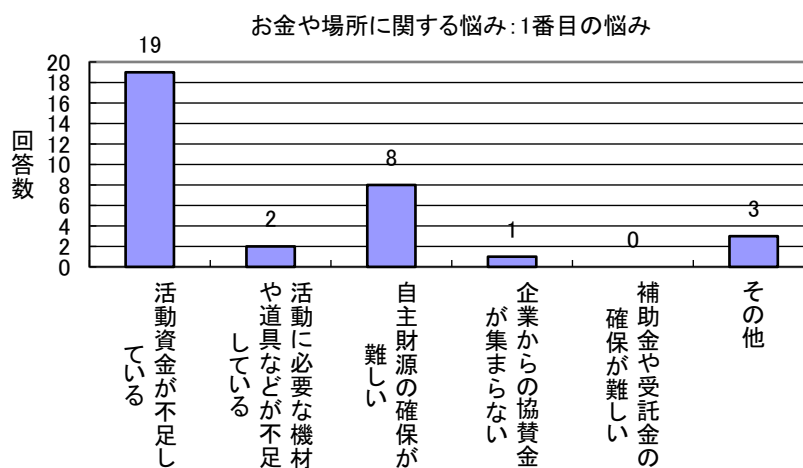
項目	回答数	率
ない	54	57.4%
ある	40	42.6%
合計	94	100.0%



項目	一番目		二番目	
	回答数	率	回答数	率
活動資金が不足している	19	57.6%	3	12.5%
活動に必要な機材や道具などが不足している	2	6.1%	3	12.5%
自主財源の確保が難しい	8	24.2%	12	50.0%
企業からの協賛金が集まらない	1	3.0%	3	12.5%
補助金や受託金の確保が難しい	0	0.0%	2	8.3%
その他	3	9.1%	1	4.2%
合計	33	100.0%	24	100.0%

#### ★その他

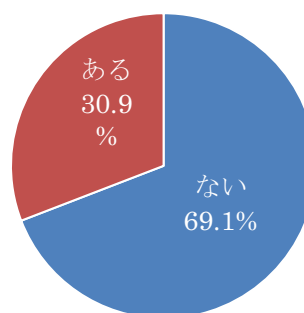
- ・充分あるとは言えずボランティアな部分も多い



活動する上で、お金に関する悩みが「ある」と回答した団体が 42.6%という結果となった。内訳としては、一番目の悩みとして 57.6%が「活動資金が不足している」と回答した。二番目の悩みとしては「自主財源の確保が難しい」が多く 50%となっている。

#### ④場所に関する悩み

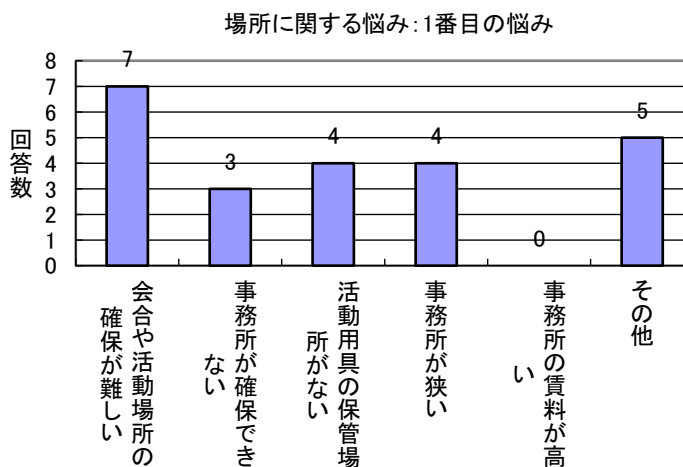
項目	回答数	率
ない	65	69.1%
ある	29	30.9%
合計	94	100.0%



項目	一番目		二番目	
	回答数	率	回答数	率
会合や活動場所の確保が難しい	7	30.4%	5	20.8%
事務所が確保できない	3	13.0%	0	0.0%
活動用具の保管場所がない	4	17.4%	8	33.3%
事務所が狭い	4	17.4%	4	16.7%
事務所の賃料が高い	0	0.0%	0	0.0%
その他	5	21.7%	2	8.3%
合計	23	100.0%	19	79.2%

#### ★その他

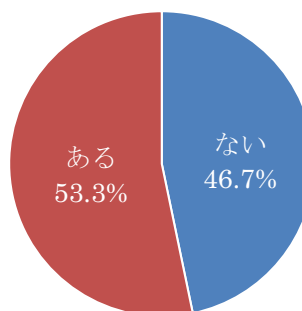
- ・自宅を練習場所に行っている（ただし3～4人程度のスペースなので）
- ・隣の部屋の音がこちらの部屋でやっている人へは本読みとか聞こえなくなってしまうこと。まあお互い様ですが。
- ・活動用具の保管場所が多く必要で現在はみ出ている状況
- ・冬が寒い
- ・発表を主に行っていた場所が無くなる
- ・駐車場が少ない。



活動する上で、場所に関する悩みが「ある」団体は30.9%ほどある。一番目の悩みとして「会合や活動場所の確保が難しい」が30.4%あり、二番目の悩みとして「活動用具の保管場所がない」が多く33.3%となった。

⑤その他の悩み

項目	回答数	率
ない	43	46.7%
ある	49	53.3%
合計	92	100.0%

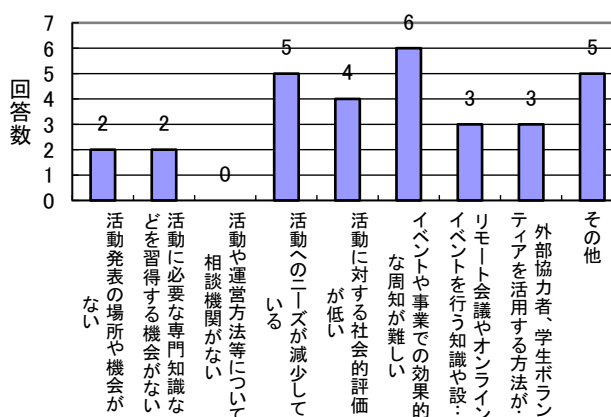


項目	一番目		二番目	
	回答数	率	回答数	率
活動発表の場所や機会がない	2	6.7%	3	7.3%
活動に必要な専門知識などを習得する機会がない	2	6.7%	4	9.8%
活動や運営方法等について相談機関がない	0	0.0%	1	2.4%
活動へのニーズが減少している	5	16.7%	10	24.4%
活動に対する社会的評価が低い	4	13.3%	6	14.6%
イベントや事業での効果的な周知が難しい	6	20.0%	8	19.5%
リモート会議やオンラインイベントを行う知識や設備がない	3	10.0%	4	9.8%
外部協力者、学生ボランティアを活用する方法がわからない	3	10.0%	1	2.4%
その他	5	16.7%	4	9.8%
合計	30	100.0%	41	100.0%

★その他

- ・使用廃止の部品が手に入らない
- ・会員が増加することによって方法・活動などが広がるのではないか
- ・コロナでフリーマーケットが出来ない
- ・代表が多忙
- ・新会員補充不足
- ・情報に格差がある。オンライン環境にない人が多数

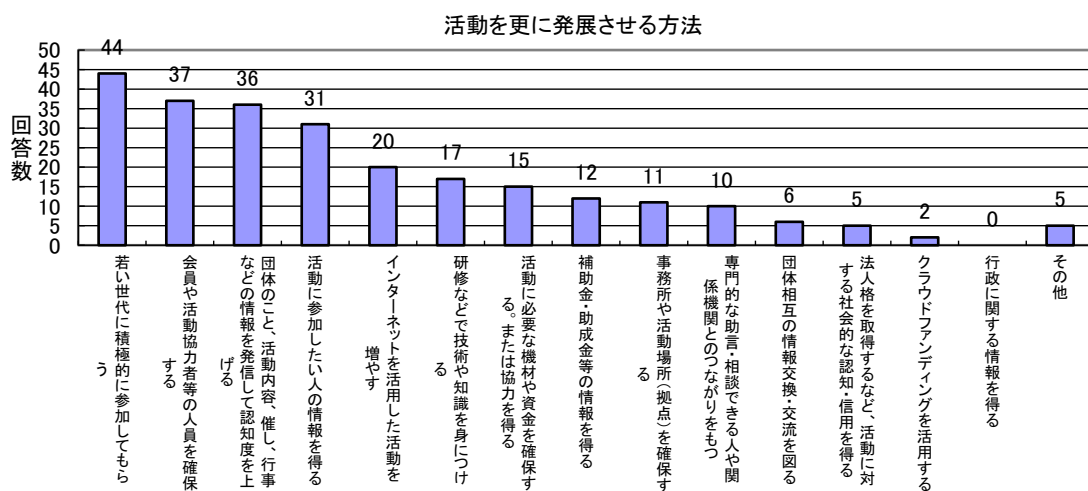
その他の悩み:1番目の悩み



その他の悩みとしては、「イベントや事業での効果的な周知が難しい」が20%と最も多いが、前回調査より約8%減少している。

### 3-2. 団体の活動を更に発展させる方法

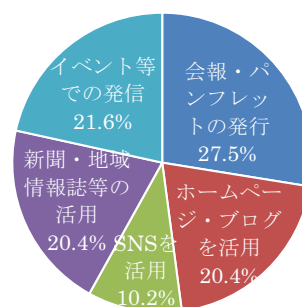
項目	回答数	率
若い世代に積極的に参加してもらう	44	17.5%
会員や活動協力者等の人員を確保する	37	14.7%
団体のこと、活動内容、催し、行事などの情報を発信して認知度を上げる	36	14.3%
活動に参加したい人の情報を得る	31	12.4%
インターネットを活用した活動を増やす	20	8.0%
研修などで技術や知識を身につける	17	6.8%
活動に必要な機材や資金を確保する。または協力を得る	15	6.0%
補助金・助成金等の情報を得る	12	4.8%
事務所や活動場所（拠点）を確保する	11	4.4%
専門的な助言・相談できる人や関係機関とのつながりをもつ	10	4.0%
団体相互の情報交換・交流を図る	6	2.4%
法人格を取得するなど、活動に対する社会的な認知・信用を得る	5	2.0%
クラウドファンディングを活用する	2	0.8%
行政に関する情報を得る	0	0.0%
その他	5	2.0%
合計	251	100.0%



活動を更に発展させる方法として、「若い世代に積極的に参加してもらう」と考えている団体が44団体と最も多く、次いで「会員や活動協力者等の人員を確保する」(37団体)、「団体のこと、活動内容、催し、行事などの情報を発信して認知度を上げる」(36団体)、「活動に参加したい人の情報を得る」(31団体)となっている。

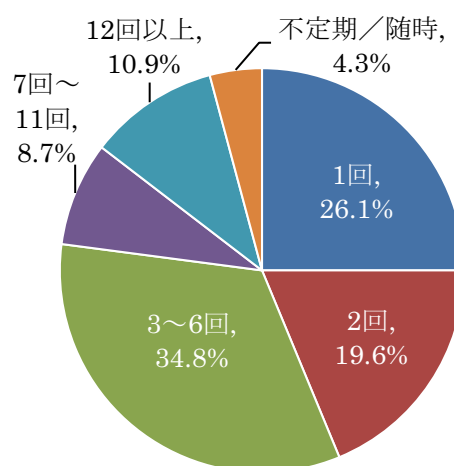
### 3-3. 情報発信の方法と頻度

項目	回答数	率
会報・パンフレットの発行	46	27.5%
ホームページ・ブログを活用	34	20.4%
SNSを活用	17	10.2%
新聞・地域情報誌等の活用	34	20.4%
イベント等での発信	36	21.6%
合計	167	100.0%



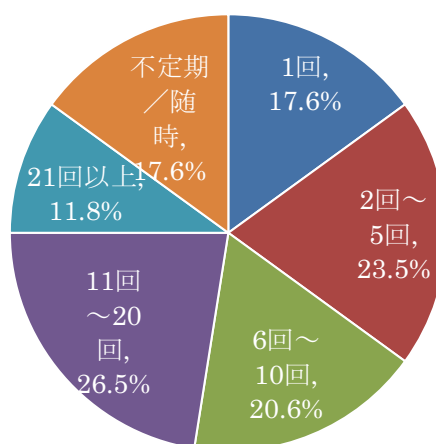
#### ①会報・パンフレットの発行（年）

項目	回答数	率
1回	12	26.1%
2回	9	19.6%
3～6回	16	34.8%
7回～11回	4	8.7%
12回以上	5	10.9%
不定期／随時	2	4.3%
合計	46	100.0%



#### ②ホームページ・ブログを活用

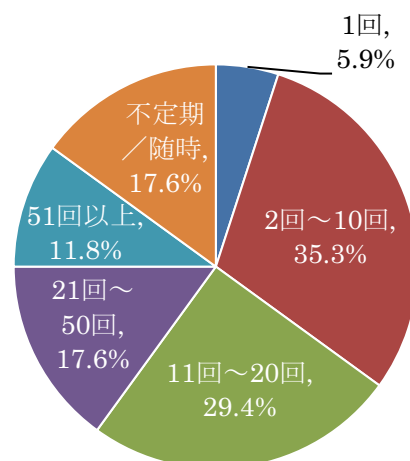
項目	回答数	率
1回	6	17.6%
2回～5回	8	23.5%
6回～10回	7	20.6%
11回～20回	9	26.5%
21回以上	4	11.8%
不定期／随時	6	17.6%
合計	34	100.0%





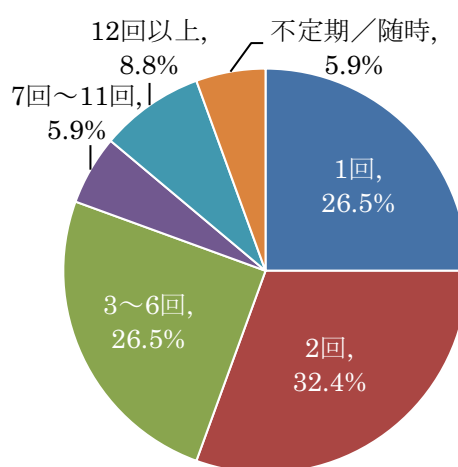
### ③ SNS を活用

項目	回答数	率
1回	1	5.9%
2回～10回	6	35.3%
11回～20回	5	29.4%
21回～50回	3	17.6%
51回以上	2	11.8%
不定期／随時	3	17.6%
合計	17	100.0%



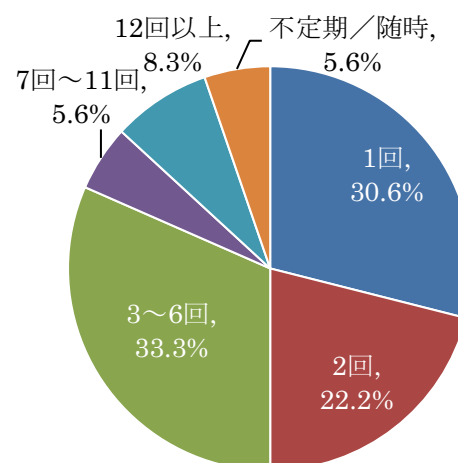
### ④新聞・地域情報誌等のメディア

項目	回答数	率
1回	9	26.5%
2回	11	32.4%
3～6回	9	26.5%
7回～11回	2	5.9%
12回以上	3	8.8%
不定期／随時	2	5.9%
合計	34	100.0%



### ⑤イベント等での発信

項目	回答数	率
1回	11	30.6%
2回	8	22.2%
3～6回	12	33.3%
7回～11回	2	5.6%
12回以上	3	8.3%
不定期／随時	2	5.6%
合計	36	100.0%



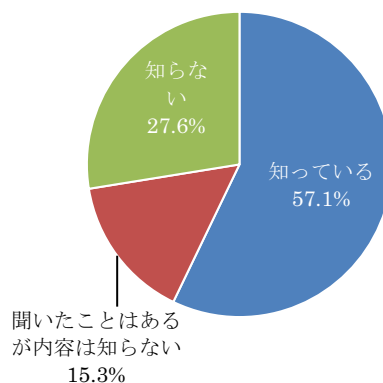
情報発信の手法としては、会報が27.5%と最も多く、SNSの活用は10.2%と最も少ない。

それぞれの頻度としては、会報・パンフレットは「3～6回」が34.8%、ホームページ・ブログは「11回～20回」が26.5%、SNSの活用は「2～10回」が35.3%、新聞・地域情報誌等のメディアは「2回」が32.4%、イベント等での発信は「3～6回」が33.3%と、それぞれ最も多くなっている。

#### (4) コラボのたねについて

##### 4-1. コラボのたねを知っているか

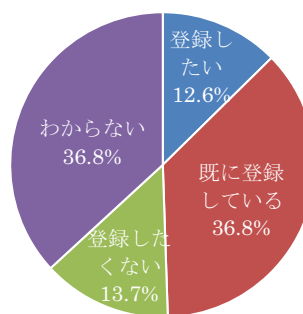
項目	回答数	率
知っている	56	57.1%
聞いたことはあるが内容は知らない	15	15.3%
知らない	27	27.6%
合計	98	100.0%



コラボのたねについては、57.1%の団体が「知っている」との回答だった。

##### 4-2. コラボのたねへの登録を希望しますか

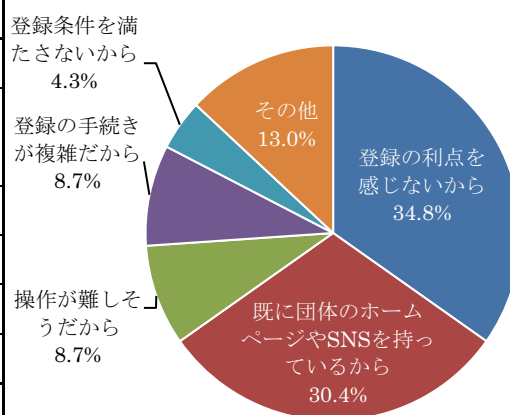
項目	回答数	率
登録したい	12	12.6%
既に登録している	35	36.8%
登録したくない	13	13.7%
わからない	35	36.8%
合計	95	100.0%



コラボのたねの登録の希望では、既に登録している団体を除くと、「登録したい」が12.6%、「登録したくない」が13.7%となっている。

##### 4-3. コラボのたねに登録したくない理由

項目	回答数	率
登録の利点を感じないから	8	34.8%
既に団体のホームページやSNSを持っているから	7	30.4%
操作が難しそうだから	2	8.7%
登録の手続きが複雑だから	2	8.7%
登録条件を満たさないから	1	4.3%
その他	3	13.0%
合計	23	100.0%



前問でコラボのたねに「登録したくない」と回答した団体に、その理由を答えてもらったところ、「登録の利点を感じないから」が34.8%、「既に団体のホームページを持っているから」が30.4%となった。その他を回答した団体のうち、具体的な記述について以下に列記する。

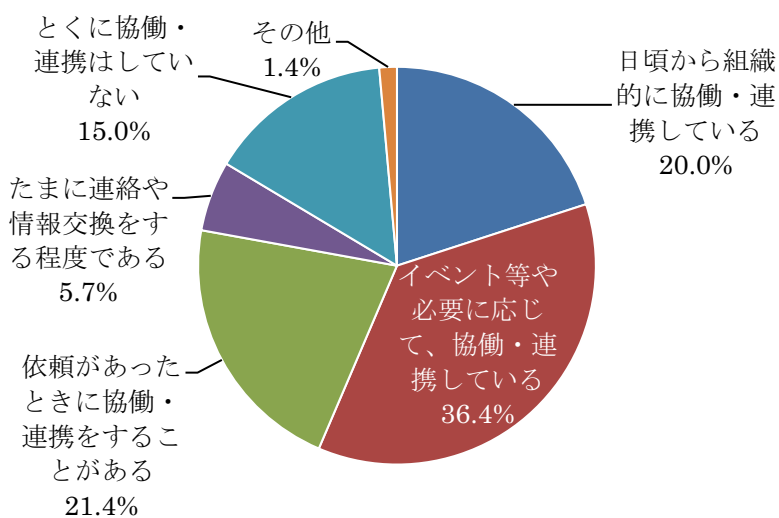
★その他

- ・仕事が忙しく、両立できない
- ・会員とコロナの為集まりがなく、話し合いたいと思っています
- ・現在のところ内容がよく理解できていない。理事会などで協議が必要なため。

(5) 行政等、他団体との協働・連携について

5-1-1. 協働・連携があるか

項目	回答数	率
日頃から組織的に協働・連携している	28	20.0%
イベント等や必要に応じて、協働・連携している	51	36.4%
依頼があったときに協働・連携をすることがある	30	21.4%
たまに連絡や情報交換をする程度である	8	5.7%
とくに協働・連携はしていない	21	15.0%
その他	2	1.4%
合計	140	100.0%



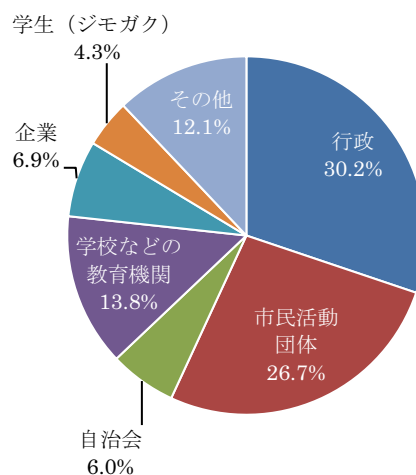
★その他

- ・手話サークル加入者と兼ねているため、手話に関する窓口を一つにしたいので。
- ・北海道病院ボランティアネットワーク、日本病院ボランティア協会に加盟し、多くの研修会に参加し、交流を通して情報交換をしている。
- ・行政・他団体が構成団体である

協働・連携があるかについて、「イベント等や必要に応じて～」が36.4%と最も多くなっており、次いで「依頼があったときに～」が21.4%と前回同様の傾向である。

5-1-2. 協働・連携して取組んだ活動

項目	回答数	率
行政	35	30.2%
市民活動団体	31	26.7%
自治会	7	6.0%
学校等の教育機関	16	13.8%
企業	8	6.9%
学生（ジモガク）	5	4.3%
その他	14	12.1%
合計	116	100.0%



協働・連携先としては、「行政」が30.2%と最も多く、次いで「市民活動団体」が26.7%となっており、前回調査と同様の傾向となっている。尚、具体的な内容は次頁の通りとなっている。

5-2. 具体的な活動内容(アンケートへの記載に基づいて掲載)

イベント	演奏会の共同企画による2か所公演の実現
	催事等の協力
	長岡市との交流、物品販売(新潟物販売・人的交流)
	市内の障がい者施設、一般企業、行政等が一体化した音楽イベント
	保温調理、家庭経済の管理(家計簿)の仕方、常備菜で食事作りをラクにする、みそ作り、縫い物等の講師
	自治会の女性部の活動の活性化をめざした人形劇
	道内のホール管理者や教育委員会と連携した演奏会の公演
	江別市生涯学習や地域団体と連携した講演及びカルタ大会
	親子ひろば、地域サロン e-たいむ(多世代交流)
	ココルクえべつと連携した多世代交流サロン CoCo カフェの開催
	学生ボランティアと連携した e-たいむまつりの開催
	市民活動センターあい、「心の保健室」の開催
	高齢者施設の清掃活動、夏まつりの手伝い、赤い羽根共同街頭募金、押し花はがき作成、歳末たすけあい共同街頭募金、クリスマスイベントの手伝い、傾聴やガイドのボランティア
	北海道協会、札幌協会と連携した競技大会の開催
	演奏会に賛助出演
	自治会等の催事の協力
	市や企業に活動場所の提供してもらい、自治会と連携し、フリーマーケットの開催
	買い物ゲームの開催
	江別市民文化祭
	平和集会の共同主催(2/11・5/3・11/3)
	協働のまちづくり事業の助成金事業、市民活動団体、自治会の集まりでの公演、図書館でのおはなし会
	他団体と連携した調査活動/イベントの開催
	市内小学校特別支援級より話をいただき、「障害のある方の働くこと」をテーマに保護者と意見交換を行った。(1日のみ)
	ふれあいレストラン 地域ふれあい料理教室 はじめての子ども料理教室他
	観光振興課との情報共有やイベント出展
	子育て支援ワーカーズ「きらきら」のイベント「きらきら☆たいむ」への出演。親子向けの手話歌を披露

イベント	コンサートへのゲスト等
	図書館の「おはなしいっぱい」のイベントにあおむし人形劇団さんと参加した。
	えべつ環境広場
	支笏湖ビジターセンター キノコ写真展
	ら・ら・らフェスティバル
	ふれあい広場
	野幌神社協賛(花見・神楽) 開拓記念祭、長岡市との交流
	野菜マルシェ、白樺祭(酪農大学)でお菓子を提供、鳴子祭、かあさん土曜日
	こどもまつり、こども文化祭
	「江別世界市民の集い」は初回から毎年協力しています。
	ら・ら・らフェスティバル、環境ひろばなど他の活動団体主催の事業に参加。
	江別市長杯、パークゴルフ大会、江別市民体育大会、パークゴルフ競技会。
	小麦フェスタ、江別製粉さんとのパンフェスタ。

講座・講演・研修会	聴覚障がい者に対する防災研修
	若者分野の取り組みについてのフォーラムの開催
	手話講習会運営、講師派遣
	行政・市民活動団体連携による語り部の記録事業や市民が講師となる講座開講
	北翔大学との連携した「人が集えば文殊の知恵袋講座」
	認知症サポーター養成講座の支援
	小中学生を対象に指導会の実施
	教育委員会主体の学習(観光案内、生涯学習等) 町内会からの講演依頼(町歩き)(四季の道)市の地域中(大学生のレンガ中心の案内)(地域おこし隊)(江別港)
	病院ボランティアコーディネーターの役割、活動紹介
	講演会等に後援して頂いた
	江別市郷土資料館友の会、講演会の共催
	江別屯田兵村遺族会、講演会の共催
	社会福祉協議会から依頼を受けて講演
	第1回勉強会(テーマ:不登校との向き合い方)を、北翔大学の教授をお招きし開催

講座・講演・研修会	第2回勉強会(テーマ:SSWと一緒によりよい連携の形を考える)を開催市教育委員会のSSWをお招きし開催
	消費者のひろば、行政と実行委員会を立ち上げ、消費者講座(共催)開催。
	使い切りレシピ講習会
	鍋帽子料理講習会

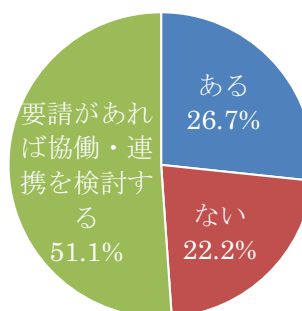
継続的活動・事業	子どものあそび場づくり
	自然保護 環境改善 整備
	江別市広報広聴課と連携した朗読音声のネット配信
	子どもの虐待防止、家庭内暴力からの保護、不登校児支援、いじめ問題110番、命の電話
	自然・環境保全
	条丁目地区のかわまちづくり
	地域との連携による清掃活動
	不登校児支援
	子育てひろばほこあぼこ受付業務と併設する宅児ルームの運営
	江別市市民生活課の委託事業(リーフレット作成、企業訪問、講演会)
	江別市教育委員会の生涯学習推進協議会主催事業の参加など
	歌詞やスピーチを文字にしてスクリーンに映す
	認知症デイサービスにてボランティア活動
	調査結果、報告書作成における協力など
	病院ボランティア活動
	社会福祉協議会主催の「ふれあい福祉の広場」に毎年出演し、来場者に向けて、手話、手話歌をPRしている。
	開花状況など告知
	北海道国際交流・協力総合センターとの外国人への生活用品、食料品の配布。市民国際交流団体や、大学、高校、ジモガクと協力し、国際交流イベント開催
	くしろ木づなフェスティバル キノコと森のつながり 写真、展示物による自然界におけるキノコの役割を解説
	小学生の戦争体験講話、木製戦闘機キ106パネル展・講演会
手話言語条例制定への協力	
落語の会	

継続的活動・事業	条丁目地区のかわまちづくり全般
	江別市、役員への派遣、社会福祉協議会と連携、共同募金
	江別市文化協会に加盟し、文化祭川柳大会、短詩型三部門交流大会などを実施
	市から依頼の3公園清掃(含トイレ)
	社協から依頼された活動(施設のイベント手伝い) 施設の喫茶、花壇整備
	例会(舞台鑑賞会)のチラシ・ポスターの配布

その他	江別市女性団体協議会との連携
	江別観光協会との連携
	北海道情報大学情報メディア学部と連携したポスターチラシのデザインの作成
	手話歌あやとり、手話の会との連携
	単独公演会で市教育委員会に後援の依頼
	一般社団法人えべつ観光協会との連携
	演劇公演の支援、共催。高校演劇部、大学演劇部との連携
	江別市自立支援協議会就労支援部会を福祉課と一緒に運営しているため、月1回の会及びその準備等で意見交換
	企業商品とのコラボレーション
	小学生・中学生との取材・交流

### 5-3. 今後協働・連携して取り組みたい活動

項目	回答数	率
ある	24	26.7%
ない	20	22.2%
要請があれば協働・連携を検討する	46	51.1%
合計	90	100.0%



#### ◆相手先と取り組みたい活動内容(アンケートへの記載に基づいて掲載)

- ・子どものあそび場づくり
- ・自然保護 環境改善 整備
- ・市、消防、聴覚障がい者に対する防災研修 情報保障研修



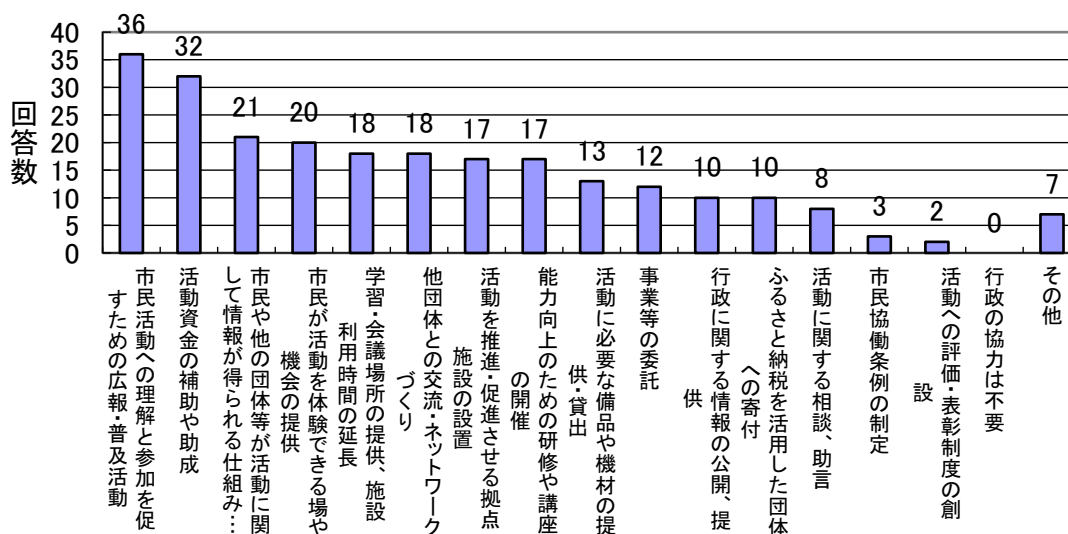
- ・ したいが、活動時間に無理がとともある
- ・ 江別市広報広聴課と連携した朗読音声のネット配信による利用者の拡充を目指したい。
- ・ 演奏会の共同企画による2か所公演の実現
- ・ 見識を高める
- ・ 今は労力と人材に余裕がなく難しいでの現状ですが、将来的には子どもたちに関わる事子どもたちの食に関わる事は取り組みたい夢を持っています。
- ・ 江別市女性団体協議会、男女共同参画社会形成関係の全般について
- ・ 子どもの虐待防止、家庭内暴力からの保護、不登校児支援、いじめ問題110番、命の電話
- ・ 全部の団体について、講演会やイベントの時に声をかけてもらって、聴覚障害者も参加できるように配慮してほしい。
- ・ 催事等の協力したい
- ・ 社会教育分野・まちづくり分野・自然環境保全分野※但し、えべつ観光協会主導
- ・ 自然・環境保全の分野
- ・ 若者分野の取り組みについてのフォーラムの開催
- ・ 市民活動団体の紹介をしてあげたい。
- ・ 長岡市との交流、物品販売(新潟物販売・人的交流)
- ・ 手話講習会運営、講師派遣
- ・ 市内の障がい者施設、一般企業、行政等が一体化した音楽イベント
- ・ 相手先と取り組みたい活動内容引き続き、条丁目地区のかわまちづくり
- ・ 地域との連携による清掃活動
- ・ 不登校児支援(親の会)相手先や具体的な内容は未定
- ・ 環境保全、子どものこと、学校、幼稚園、行政など。＜内容＞保温調理、家庭経済の管理(家計簿)の仕方、常備菜で食事作りをラクにする、みそ作り、縫い物。

(6) 市民活動の促進について

6-1. 行政に求めること

項目	回答数	率
市民活動への理解と参加を促すための広報・普及活動	36	14.8%
活動資金の補助や助成	32	13.1%
市民や他の団体等が活動に関して情報が得られる仕組みの整備	21	8.6%
市民が活動を体験できる場や機会の提供	20	8.2%
学習・会議場所の提供、施設利用時間の延長	18	7.4%
他団体との交流・ネットワークづくり	18	7.4%
活動を推進・促進させる拠点施設の設置	17	7.0%
能力向上のための研修や講座の開催	17	7.0%
活動に必要な備品や機材の提供・貸出	13	5.3%
事業等の委託	12	4.9%
行政に関する情報の公開、提供	10	4.1%
ふるさと納税を活用した団体への寄付	10	4.1%
活動に関する相談、助言	8	3.3%
市民協働条例の制定	3	1.2%
活動への評価・表彰制度の創設	2	0.8%
行政の協力は不要	0	0.0%
その他	7	2.9%
合計	244	100.0%

行政に求めること



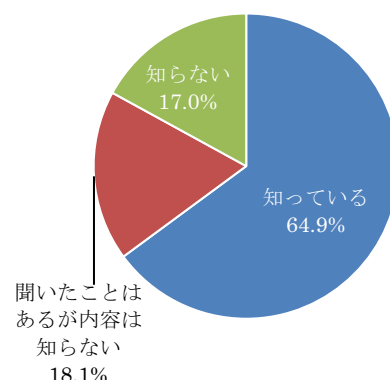
◆その他(アンケートへの記載に基づいて掲載)

- ・会場の継続的、優先的な確保
- ・市は環境整備に無頓着、非協力的、本来はもっとイニシアティブをとって行くべきではないのか? そのうちそっぽを向かれます!
- ・興味を示すような企業に補助や助成できないか打診してみる
- ・行政課題の公開、公正かつ透明な民間委託や助成金交付の仕組み。

「市民活動への理解と参加を促すための広報・普及活動」が 14.8%と最も多く、「活動資金の補助や助成」が 13.1%と続く結果となった。

6-2. 「市民活動団体版出前講座」を知っているか

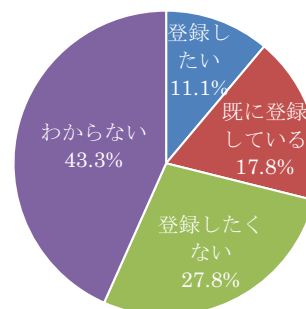
項目	回答数	率
知っている	61	64.9%
聞いたことはあるが内容は知らない	17	18.1%
知らない	16	17.0%
合計	94	100.0%



市民活動団体版出前講座については、64.9%の団体が「知っている」との回答だった。

6-3. 「市民活動団体版出前講座」への登録を希望するか

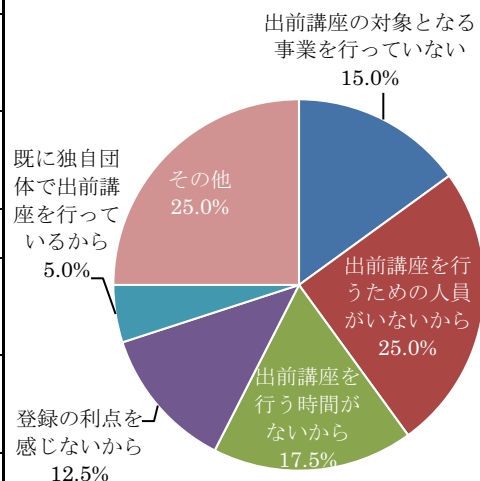
項目	回答数	率
登録したい	10	11.1%
既に登録している	16	17.8%
登録したくない	25	27.8%
わからない	39	43.3%
合計	90	100.0%



出前講座の登録の希望では、既に登録している団体を除くと、「登録したい」が 11.1%、「登録したくない」が 27.8%となっている。

6-4. 「市民活動団体版出前講座」に登録したくない理由

項目	回答数	率
出前講座の対象となる事業を行っていない	6	15.0%
出前講座を行うための人員がないから	10	25.0%
出前講座を行う時間がないから	7	17.5%
登録の利点を感じないから	5	12.5%
既に団体独自で出前講座を行っているから	2	5.0%
登録手続きが難しそうだから	0	0.0%
出前講座実施時の手続きが難しそうだから	0	0.0%
その他	10	25.0%
合計	40	100.0%



★その他

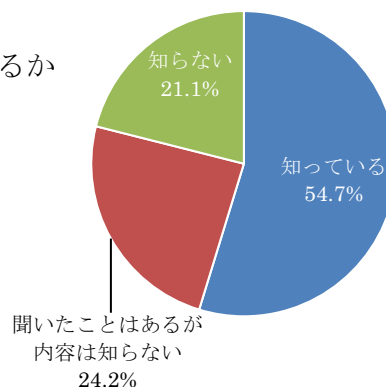
- ・手話に関して江別市手話講習会 運営委員会が窓口になって受けているから
- ・現在登録の必要性がない。社会福祉協議会のボランティア会団体連絡協議会に登録しているので
- ・自主講座として市民のための講座は行っている
- ・合唱団は出前講座になじまない
- ・出前講座を行える内容がないから
- ・講座を行う団体ではないから
- ・市役所手話講習会運営委員会が窓口となっているので依頼があればサークル会員から参加
- ・手話に関しては、講習会運営委員会で(市から委託) 行っているため

前問で出前講座に「登録したくない」を回答した団体に、その理由を答えてもらったところ、「出前講座を行うための人員がないから」が25.0%、「出前講座を行う時間がないから」が17.5%、「出前講座の対象となる事業を行っていない」が15.0%となった。

(7) 協働のまちづくり活動支援事業について

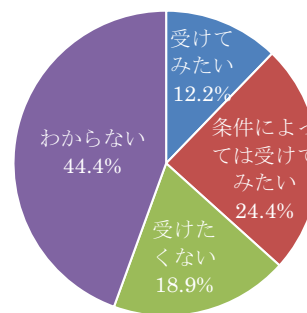
7-1-1. 協働のまちづくり活動支援事業を知っているか

項目	回答数	率
知っている	52	54.7%
聞いたことはあるが内容は知らない	23	24.2%
知らない	20	21.1%
合計	95	100.0%



7-1-2. 協働のまちづくり活動支援事業を受けたいか

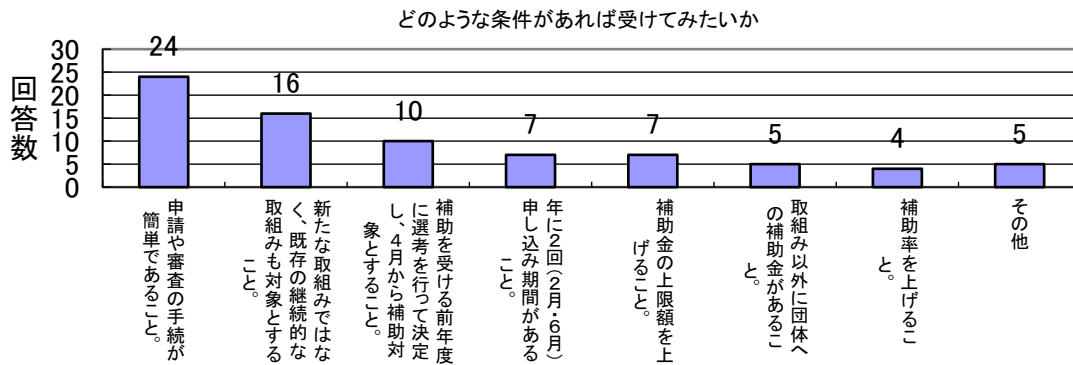
項目	回答数	率
受けたい	11	12.2%
条件によっては受けたい	22	24.4%
受けたくない	17	18.9%
わからない	40	44.4%
合計	90	100.0%



7-1-3. (条件によっては受けたいと答えた団体)

どのような条件があれば受けたいか

項目	回答数	率
申請や審査の手続きが簡単であること。	24	30.8%
新たな取組みではなく、既存の継続的な取組みも対象とすること。	16	20.5%
補助を受ける前年度に選考を行って決定し、4月から補助対象とすること。	10	12.8%
年に2回(2月・6月)申し込み期間があること。	7	9.0%
補助金の上限額を上げること。	7	9.0%
取組み以外に団体への補助金があること。	5	6.4%
補助率を上げること。	4	5.1%
その他	5	6.4%
合計	78	100.0%

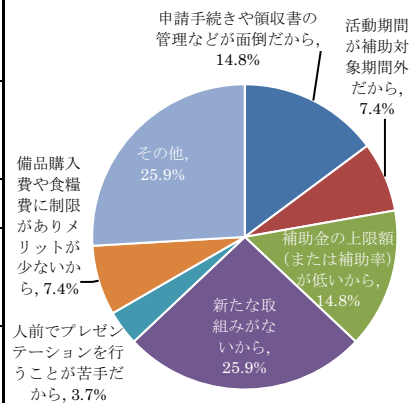


◆その他(アンケートへの記載に基づいて掲載)

- ・補助率 80%
- ・補助率 1年目は 90% 2年目は 75% 3年目 50% 等補助率変動制など。1 団体ではなく 2 団体で協働する場合上限額の引き上げや補助率を上げるなどしてほしい。申請があって第一段階で書類審査をして協働まちづくりに該当しないものは外してほしいです。一生懸命やっているのに全体的に厳しくなっていくのはおかしい。
- ・当会に於いて、検討を要するため。
- ・今のままでよい
- ・企画の段階で申請ができれば良いのですが
- ・必要に応じてお願いしたい

7-1-4. 協働のまちづくり活動支援事業に受けたくない理由

項目	回答数	率
申請手続きや領収書の管理などが面倒だから	4	14.8%
活動期間が補助対象期間外だから	2	7.4%
補助金の上限額 (または補助率) が低いから	4	14.8%
新たな取組みがないから	7	25.9%
人前でプレゼンテーションを行うことが苦手だから	1	3.7%
備品購入費や食糧費に制限がありメリットが少ないから	2	7.4%
その他	7	25.9%
合計	27	100.0%



◆その他

良くわからない

現在の収入でできているので不要

解散予定なので

合唱団の活動は制度の趣旨とは異なる

収益事業を行っていないから

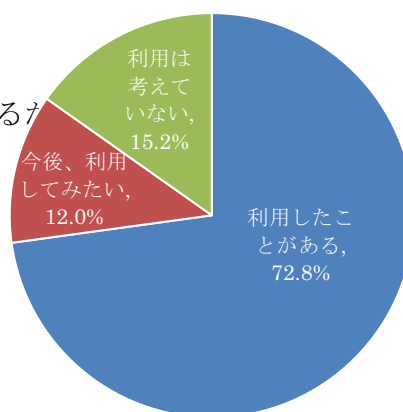
今の活動状況に満足かつ多忙なため。

活動資金は足りているので

(8) 江別市民活動センターについて

8-1. 江別市民活動センターを利用したことがあるか

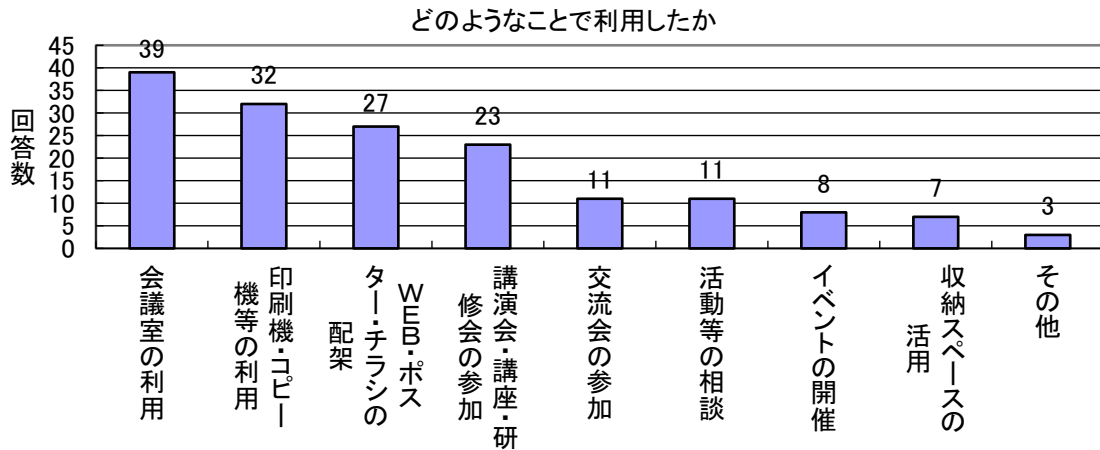
項目	回答数	率
利用したことがある	67	72.8%
今後、利用してみたい	11	12.0%
利用は考えていない	14	15.2%
合計	92	100.0%



同センターの利用について、「利用したことがある」は前回調査と比べ約 8%増加、「今後、利用してみたい」は約 7%減少している。

8-2-1. どのようなことで利用したか

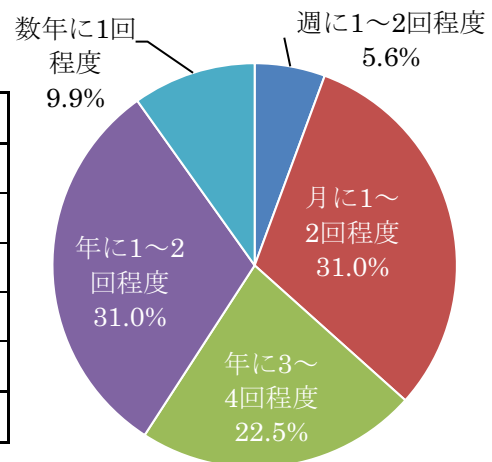
項目	回答数	率
会議室の利用	39	24.2%
印刷機・コピー機等の利用	32	19.9%
WEB・ポスター・チラシの配架	27	16.8%
講演会・講座・研修会の参加	23	14.3%
交流会の参加	11	6.8%
活動等の相談	11	6.8%
イベントの開催	8	5.0%
収納スペースの活用	7	4.3%
その他	3	1.9%
合計	161	100.0%



センターの利用目的では、「会議室の利用」が最も多く、次いで「印刷機・コピー機等の利用」「WEB・ポスター・チラシの配架」となっている。

8-2-2. 利用頻度

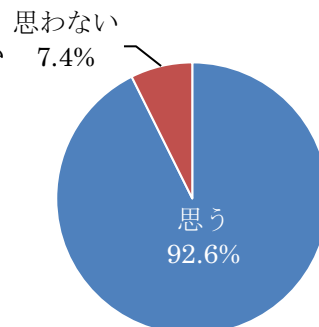
項目	回答数	率
週に1～2回程度	4	5.6%
月に1～2回程度	22	31.0%
年に3～4回程度	16	22.5%
年に1～2回程度	22	31.0%
数年に1回程度	7	9.9%
合計	71	100.0%



利用頻度は、「月に1～2回程度」、「年に1～2回程度」が最も多く、それぞれ31.0%となった。

8-2-3. 誰もが気楽に利用出来る場となっているか

項目	回答数	率
思う	63	92.6%
思わない	5	7.4%
合計	68	100.0%





#### 8-2-4. 誰もが気楽に利用出来る場となっていると「思わない」理由

- ・入りにくい
- ・野幌駅に近いという事は利点なのですが、バス利用の市民は、バスの本数が少なく気楽に行けるところではない。しかし、これまでセラミックアートセンターでの催しを変更してもらえると有難い。
- ・市立病院内にボランティア室があり、活動の場所がある。研修会、イベントなども院内の会議室を使用できる。印刷機、コピー機等も使用できる。恵まれた環境でボランティア活動が継続することができている。
- ・移転してから行きにくい
- ・大麻の住人には、場所的に利用しづらいと感じる

#### 8-3. 配慮して欲しい要望等(アンケートへの記載に基づいて掲載)

- ・すべて合格です！打ち合わせの延長で隣のレストランを利用したくてもできませんネ！市はいったいどういう条件で業者選定をしているのですかね？駅前一等地の活用がなっていません！！
- ・印刷機は良いが、紙折機の能力アップ
- ・隣の部屋の声がこちらの部屋でやっている人へは本読みとか聞こえなくなってしまうこと。まあお互い様ですが。
- ・現状で満足しています
- ・わからないことなど丁寧に教えて頂き感謝しています。とっっても利用しやすいです。印刷やコピーなども低い設定なので大変助かっています。
- ・コピー料金は江別イオンタウンの2階ダイソーでA41枚5円だったと記憶します。
- ・駐車場のチケットが薄くてすぐ破ける
- ・会議・打ち合わせで利用させて頂きたい
- ・窓口の方達はとても親切で、安心して利用できます。ショッピングセンターにあった時より、ついで利用ができないので、もっとPRしてください。

#### 8-4. 「利用は考えていない」理由(アンケートへの記載に基づいて掲載)

- ・活動拠点が別にあるため(福祉センター)
- ・野幌公民館での例会が固定化してしまったので。
- ・具体的な活動内容を知らないため
- ・現在当会活動は自治会地域内であるため自治会館を使用しているためです。
- ・現状、特に必要性はありません。
- ・公民館を活動拠点としており、今後も変わらないと考える。
- ・公民館等無料で借りられるから。「青少年の健全育成」に該当する為。
- ・会としての活動が続けることが出来ないため。

#### 8-5. NPO 法人えべつ協働ねっとわーくに期待すること

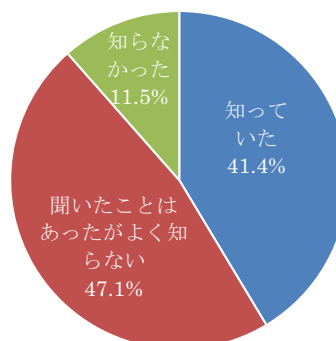
(アンケートへの記載に基づいて掲載)

- ・「コラボのたね」のアクセス数をより多くなるような取組み、広報で知名度を上げてほしい。
- ・役員研修をお願いしたい。(わかりやすく講演を聞いてみたい)
- ・解りやすく説明してほしい
- ・今後活動を続ける上でいろいろ相談させていただきたいです。
- ・解散予定なので特に期待することはありません。
- ・どんな行事にも聴覚障害者が参加できるように手話や要約筆記があることを忘れずすすめてほしい。
- ・「人が集まる」場所という意味で引き続き、団員募集や演奏会のポスターを掲示させていただきたい。
- ・他の団体との交流できる機会がほしい・・・がコロナ化禍なので仕方がない。収束した時に期待！
- ・利用、活動できると良いと思っています。
- ・着替え場所の確保
- ・最近リモート会議で使用させていただき、たいへんご親切に対応いただき助かっております。今後も更に益々この様な会議でご発展いただきます様、期待しております。
- ・この地域に根ざした事業所となっていきたいと考えています。これからも障がいがある方への理解を広めていくため、更に事業所とは何かを啓発するため、細部にわたってご指導していただきたい。

(9) 認定 NPO 法人制度について

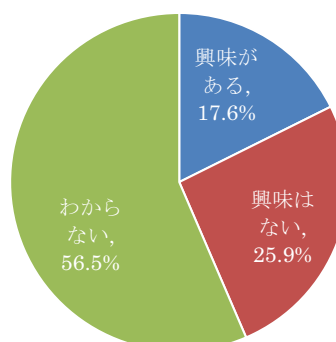
9-1. 認定 NPO 法人制度を知っていたか

項目	回答数	率
知っていた	36	41.4%
聞いたことはあったがよく知らない	41	47.1%
知らなかった	10	11.5%
合計	87	100.0%



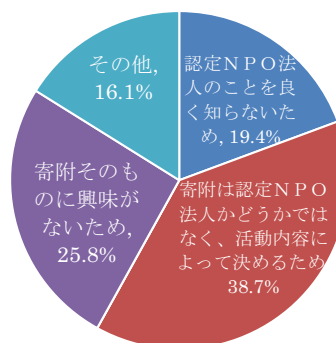
9-2-1. 認定 NPO 法人への寄付に興味があるか

項目	回答数	率
興味がある	15	17.6%
興味はない	22	25.9%
わからない	48	56.5%
合計	85	100.0%



9-2-2. 認定 NPO 法人への寄付に興味がない理由

項目	回答数	率
認定 NPO 法人のことを良く知らないため	6	19.4%
寄附は認定 NPO 法人かどうかではなく、活動内容によって決めるため	12	38.7%
寄附金の還付率が低い	0	0.0%
寄附そのものに興味がないため	8	25.8%
その他	5	16.1%
合計	31	100.0%



◆その他(アンケートへの記載に基づいて掲載)

- ・本会でも寄付を頂きたいため
- ・団体としてその余力はないため
- ・申請等が難しそう・・・時間がない
- ・寄付されると情報発信が必要になり、負担である
- ・自分の団体には、関係がないと思うので

## (10) その他

### 10-1. 新しい活動団体の情報

- ・えべつここからつながる支えあいアクション
- ・スマイル体操クラブ

### 10-2. その他要望等(アンケートへの記載に基づいて掲載)

・ポスターの内容に注目して頂き、又、お声がけくださいますとありがとうございます。江別との活動を応援して頂けるのは有難いです。ただ、アンケートの問いの内容があまりに多く、又、細に渡って具体的になっておられましたので、途中から答えることに抵抗を覚えてきたのですが・・・正直な感想です。初対面から踏み込んで来られた感がございまして、当方、もちろん現状をもっと良くしたいと考えておりますが、あまり積極的に表へ・・・というタイプではないので、自分は無理せず出来る範囲で細く長くが目標するところです。ご縁がありましたときにはよろしく願いいたします。

・今後ますます高齢化が進むので、それに対応する取り組みが必要だと思う。今まで幸いなことに自治会では孤独死はなかったが、危ない状況はある。それと市民の足をもう少し真剣に考えて欲しいと思う。現在は運転している人もあと何年かで運転できなくなるから、その足を考えて欲しい。公共交通機関として乗り合いバスや、コミュニティバスなどの運行を真剣に考えてほしい。料金無料なんてケチなことは言わないで、妥当な金額を改定して走らしてほしい。

・会員の中で、この問題について話し合ったことがなく、会としての意見を持っておりませんでした。

・ネット？ウェブ発信とか？(高齢者としては難しい) 市民活動をもっと気軽に使える場であってほしい。簡単に教えてもらえる場が欲しい。

・いつもお世話になっております。特に棚の使用について、物が多くて納まりきらない状況です。ご迷惑をおかけし、心苦しく思っております。他団体さんにも申し訳ありません。できるだけ整理整頓に努めますのでよろしくお願い致します。

・自発的に活動する方(団体) への支援はどこまでなのか・・・若い世代と活動するにはリモートの使い方を学び共に向上したいと考えています。そのための研修等の協力はどこまでなのか・・・

・いつもご支援ありがとうございます。本年もよろしくお願い致します。コロナ禍収束し、積極的な地域活動をしたいですね

・市民活動センターあいの皆様には大変お世話になっております。いつもよくして頂き感謝しかありません。こちらからも協力できることあればご一緒したいです。今後ともよろしくお願ひ致します。子どもに関わる市民活動団体と何か協働できる事は無いか？顔の見える関係が出来たら嬉しい。地域の子育て支援や地域食堂・子ども食堂・民生委員など・・・子育てママの悩み、相談を受けている人などの話も聞きたいです。市民活動団体見本市ビデオでの参加でしたが、他団体に見てもらえきらきらのことを知ってもらえました。(直接連絡ももらいました) コロナ禍の中うまく活動出来ていないので大変有難いです。自分の団体もメンバーも他の活動を知ってもらうのに足を運んでもらえたら良かったと感じます。

・現在、公認心理士としてスクールカウンセラーや就労移行支援でのコミュニケーション講座などをしますので、市民活動になかなか時間を使えませんが、これらの経験で得たものを、特に「子ども・思春期の子どもとの関わり」などについては市民の皆様研修や講座として提供したいと考えております。

・江別の歴史にからむアイヌの話 江別の最新農業の話 江別関連の作家や本の話 最近のボランティア事情の話

・まちづくり・環境保全の活動を促進したいと考えています。研修会等に参加希望ありますが、コロナ禍でこれからはますます難しくなっている。情報の共有が簡単にとれる方法を考えたいし、考えて頂ければ・・・

・いつも親切にいただき心よりお礼申します。

・これから川が上演するとすれば50周年記念公演とかになると思います。活動センターに集う方々に出演をお願いしてもよろしいでしょうか。まだ公演をやるかどうかは決まっておられません。

・いつも大変お世話になっております。以前、Facebookのやり方を教えていただいて、とても助かり、情報発信に活用中です。スタッフの皆さんは皆さんとても親切で、感謝です。

・魅力ある商品(菓子パン)の販売方法。魅力あるパッケージ

・障がい(知的、身体、精神と様々ですが)を持たれた方の中には社会(施設通所も含めて・・・)に関わらずまた、関わらず、家に引きこもる。また出たくても出られない・・・などの方が多くいます。そんな方々がどうしたら家から、また大きな意味で社会に一步踏み出すことができるのか。どうしたら社会や地域、周りが理解して関われるか。関わる事が素晴らしい事かを一緒に体験を共有できるとよいのか。そのためには障がいがある特別なものではないことを多く知っていただける、また「障がい」を福祉関係者のみならず誰もが気軽に扱われる議題、「障がい」がまだ世間では”特別視”されていることの不条理さをみんなでもっと当たり前のように共有できる場(講習会等)が何かあると良いと思います。取り留めない話ですみません。

・今取り組んでいる活動内容や広めたい事など発信出来る掲示板やコーナーがあったらいいなあと思います。

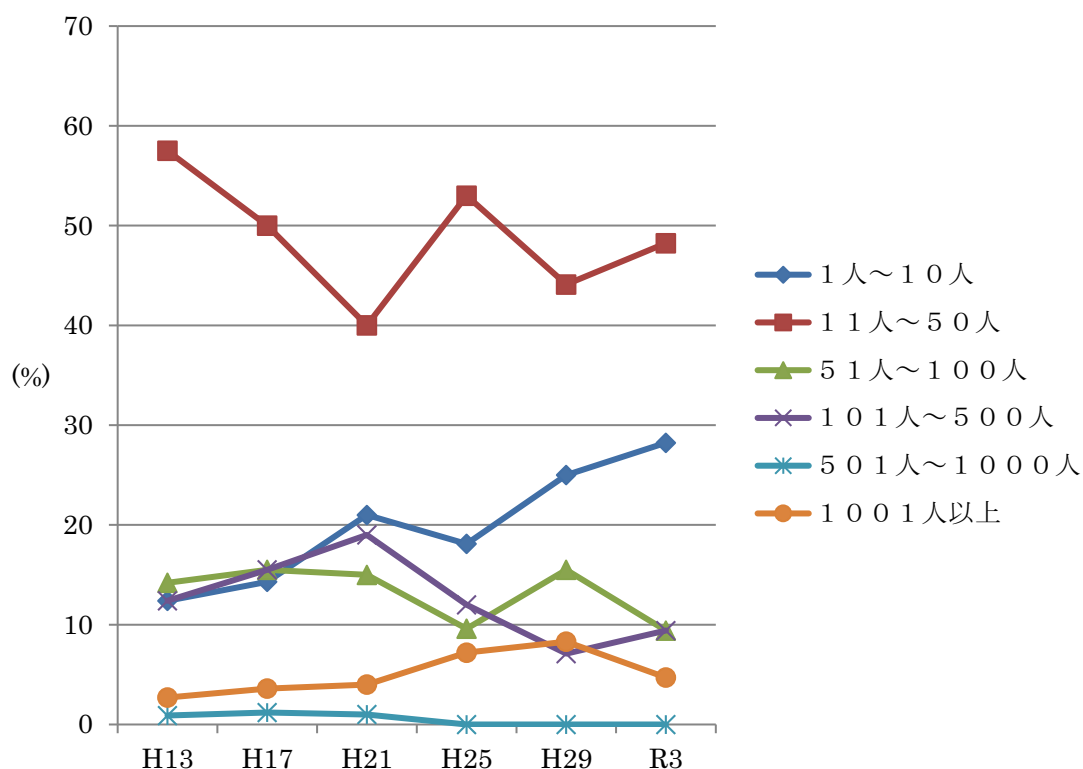
資料1 平成13年、17年、21年、25年、29年、令和3年の調査結果の比較

※有効回答数：平成13年(122)、17年(101)、21年(140)、25年(100)、29年(95)、令和3年(106)

(1) 会員数の推移

(%)

会員数	H13	H17	H21	H25	H29	R3
1人～10人	12.4	14.3	21.0	18.1	25.0	28.2
11人～50人	57.5	50.0	40.0	53.0	44.1	48.2
51人～100人	14.2	15.5	15.0	9.6	15.5	9.4
101人～500人	12.4	15.5	19.0	12.1	7.1	9.4
501人～1000人	0.9	1.2	1.0	0.0	0.0	0.0
1001人以上	2.7	3.6	4.0	7.2	8.3	4.7



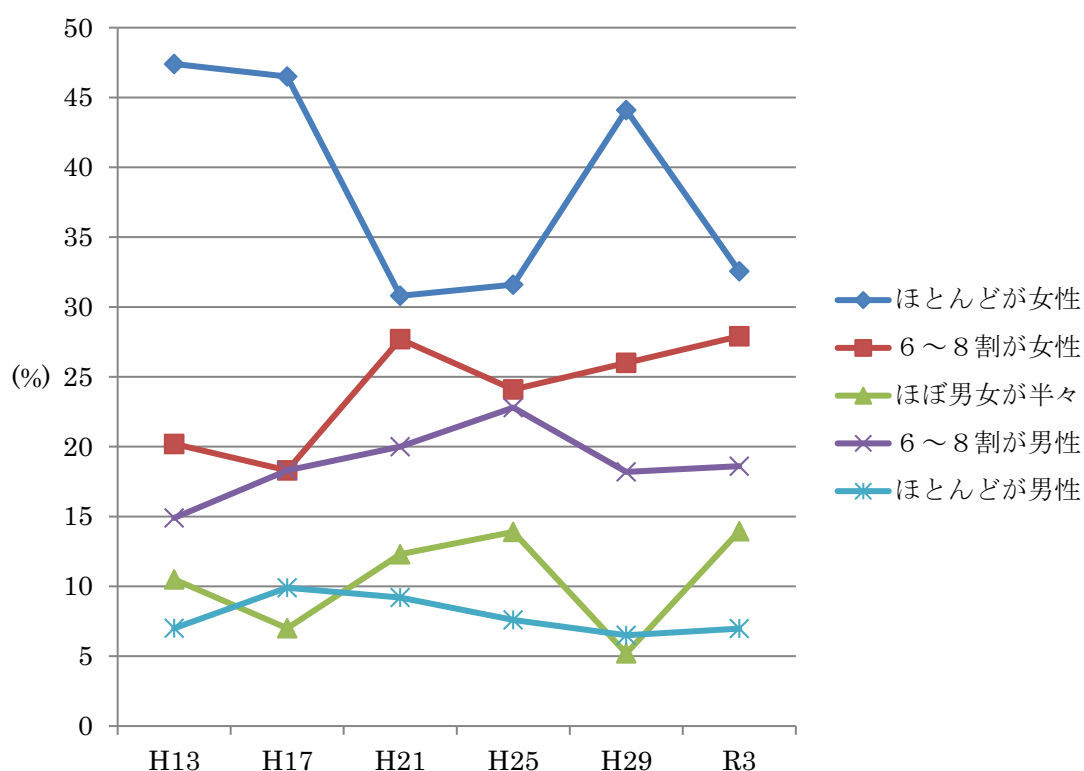
・1～10人、11～50人以上の団体で増加が見られ、特に11～50人は約4%増加している。

・51～100人の会員数の団体は約6%の減少となっている。

(2)会員の男女比

(%)

項目	H13	H17	H21	H25	H29	R3
ほとんどが女性	47.4	46.5	30.8	31.6	44.1	32.6
6～8割が女性	20.2	18.3	27.7	24.1	26.0	27.9
ほぼ男女が半々	10.5	7.0	12.3	13.9	5.2	14.0
6～8割が男性	14.9	18.3	20.0	22.8	18.2	18.6
ほとんどが男性	7.0	9.9	9.2	7.6	6.5	7.0



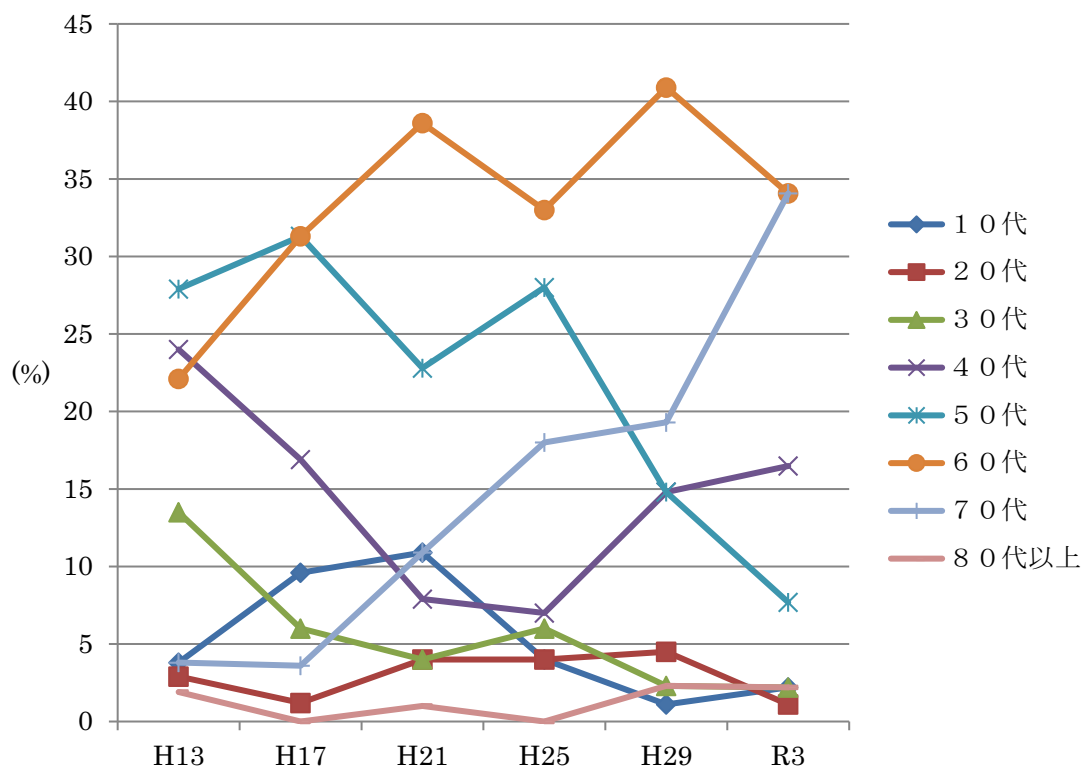
- ・ほとんどが女性、という団体は H29 で大きく増加していたが、今回の調査では 32.6% まで減少している。
- ・男女半々の団体が H29 の調査で減少していたが、今回調査で 14.0% まで増加している。
- ・6～8割が女性、という団体は増加する傾向にあり、会員の女性への偏りは大きくなっている。



(3) 中心年代の推移

(%)

項目	H13	H17	H21	H25	H29	R3
10代	3.8	9.6	10.9	4.0	1.1	2.2
20代	2.9	1.2	4.0	4.0	4.5	1.1
30代	13.5	6.0	4.0	6.0	2.3	2.2
40代	24.0	16.9	7.9	7.0	14.8	16.5
50代	27.9	31.3	22.8	28.0	14.8	7.7
60代	22.1	31.3	38.6	33.0	40.9	34.1
70代	3.8	3.6	10.9	18.0	19.3	34.1
80代以上	1.9	0.0	1.0	0.0	2.3	2.2



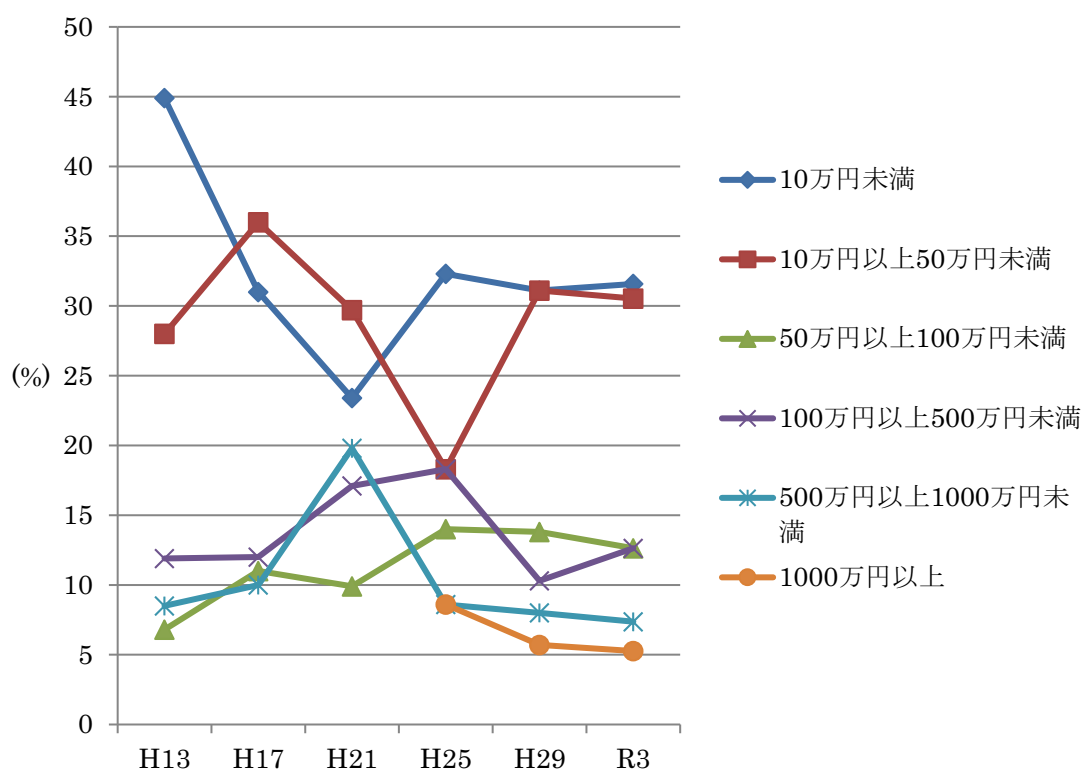
- ・40代はわずかではあるが増加傾向にあり、70代は前回調査に引き続き増加している。
- ・70代が大幅に増加し、50代が大幅に減少、60代も減少していることから、前回主だった層が主に70代に移行したことが考えられる。
- ・80代以上はほぼ横ばいになっている。

(4) 予算規模

(%)

項目	H13	H17	H21	H25	H29	R3
10万円未満	44.9	31.0	23.4	32.2	31.1	31.6
10万円以上50万円未満	28.0	36.0	29.7	18.3	31.1	30.5
50万円以上100万円未満	6.8	11.0	9.9	14.0	13.8	12.6
100万円以上500万円未満	11.9	12.0	17.1	18.3	10.3	12.6
500万円以上1000万円未満	8.5	10.0	19.8	8.6	8.0	7.4
1000万円以上				8.6	5.7	5.3

※H13～21は、上限は500万円以上までの選択肢のみ



- ・ 100万～500万円未満の団体は、前回調査に比べ2.3%増加した。
- ・ 前回調査に比べ、10万円未満の団体は微増、10万～100万円未満、500万円以上の団体は微減となった。

令和3年度 市民活動団体アンケート調査票（回答用紙）

**はじめに、あなたの団体(グループ)の概要についてお伺いします。**

下の「団体(グループ)自己紹介表」に、あなたの団体(グループ)の概要をご記入ください。  
 この自己紹介表は、市民や他の各種団体等から問い合わせがあった場合、また、団体間の協働・交流などに活用したいと考えています。そのため、公開することも想定していますが、もし公開に不都合な項目がありましたら、各項目の左側の非公開欄に○印を付けてください。

**■団体(グループ)自己紹介表**

※「**コラボのたね**」登録団体は、登録情報に変更が無ければ**団体の名称のみ**で構いません

※**団体が解散している場合は、お手数ですがご連絡ください。**

(↓非公開欄 公開が不都合な項目に○印を付けてください)

	団体の名称	ふりがな		
	代表者の 役職・氏名	役 職 ふりがな 氏 名	連絡担当者 の氏名	ふりがな
	団体の住所 ・連絡先	〒 (                          様方) 電話:                          FAX:                          -                          -		
	e-mail	@		
	ホームページ ・SNS等			
	団体設立年月	年   月	会則(規約、定款)の有無	有 ・ 無
	設立趣旨 (目的)			
	活動分野	(下の活動分野表から該当する番号を 全て選び記入してください)	(左記のうち特に力を 入れている分野1つを 記入してください)	
	活動内容	(具体的に記入してください)		
	活動対象地域			
	会員数:	人(男女の割合:男          割、女          割)		
	会員数の推移:	増えている ・ 変わらない ・ 減っている		
	会報の有無:	発行している(年          回発行) ・ 発行していない		

**【活動分野表】**

- 1 保健、医療 2 高齢者福祉 3 子育て支援 4 障がい者福祉 5 その他社会福祉 6 社会教育・生涯学習  
 7 まちづくり 8 学術 9 文化 10 芸術 11 スポーツ 12 環境保全 13 災害救援、防災 14 防犯、交通安全  
 15 人権の擁護 16 平和の推進 17 国際協力・国際交流 18 男女共同参画社会の形成の促進  
 19 子ども・青少年の健全育成 20 情報化社会の発展 21 科学技術の振興 22 経済活動の活性化  
 23 職業能力の開発・雇用機会の拡充支援 24 消費者保護 25 市民活動の支援・促進 26 観光  
 27 その他 (具体的に)

【次にアンケート調査への回答をお願いします。】

**1. あなたの団体（グループ）の会員についておたずねします。**

- 1-1 会員の年齢構成についておたずねします。
- (1) 会員の年齢の幅は何歳から何歳ですか。  
( ) 歳から ( ) 歳まで
- (2) 会員のうちもっとも多い年代は次のうちどれですか。該当する番号に○印を付けてください。
- ① 10代 ② 20代 ③ 30代 ④ 40代  
⑤ 50代 ⑥ 60代 ⑦ 70代 ⑧ 80代以上
- 1-2 会員の方は主にどのようなご職業の方が多いでしょうか。該当する番号の3つ以内に○印を付けてください。
- ① 会社員 ② 公務員・団体職員 ③ 自営業・経営者（農業・商業・工業等）  
④ 専門的職業（医師・教員等） ⑤ パート・アルバイト  
⑥ 家事従事者（主婦等） ⑦ 定年退職者  
⑧ 学生 ⑨ その他 ( )

**2. あなたの団体（グループ）の組織・運営についておたずねします。**

- 2-1 年間の活動資金はどの程度ですか。該当する番号に○印を付けてください。（令和2年度または令和元年度の決算額でお答えください）
- ① 10万円未満 ② 10万円以上50万円未満  
③ 50万円以上100万円未満 ④ 100万円以上500万円未満  
⑤ 500万円以上1000万円未満 ⑥ 1000万円以上
- 2-2 収入としている財源の割合についてお聞きします。（整数でお答え下さい）
- |                   |       |
|-------------------|-------|
| ① 会費および入会金        | ( ) % |
| ② 行政や民間からの補助金・助成金 | ( ) % |
| ③ 行政や民間からの業務委託    | ( ) % |
| ④ 自主的・独自の事業による収入  | ( ) % |
| ⑤ その他 [ 寄付金など・ ]  | ( ) % |
| 合計                | 100 % |
- 2-3 常勤のスタッフは配置していますか。該当する番号に○印を付けてください。
- ① 配置している（2-4へ） ② 配置していない（2-5へ）
- 2-4 常勤スタッフのうち、有給のスタッフの人数と、1か月の人件費はどれぐらいですか。
- |                   |       |
|-------------------|-------|
| ・ 1円以上 ~ 5万円未満    | ( ) 名 |
| ・ 5万円以上 ~ 10万円未満  | ( ) 名 |
| ・ 10万円以上 ~ 15万円未満 | ( ) 名 |
| ・ 15万円以上 ~ 20万円未満 | ( ) 名 |
| ・ 20万円以上 ~ 25万円未満 | ( ) 名 |
| ・ 25万円以上          | ( ) 名 |
- 2-5 現在の活動状況は以下のどれですか。該当する番号に○印を付けてください。
- ① 活発 ② やや活発 ③ 停滞 ④ 休止状態 ⑤ 解散予定

### 3. あなたの団体（グループ）の活動内容についておたずねします。

3-1 現在、活動するうえで抱えている悩みとして、どのようなことがありますか。

次の（1）～（4）の各項目について、一番目の悩みに◎、二番目の悩みに○印（いずれも1つ）を付けてください。

（1）人に関する悩みがある

① ない

- ② ある→ a. 新しい会員が増えない。  
b. 会員の減少で人手が足りない。  
c. 活動の中心者となる後継者が育っていない。  
d. 会員の高齢化や世代・男女の偏りがある。  
e. 会員の労力や事務的負担が大きい。（一部の会員に労力が集中する）  
f. 活動に参加できる会員が少なく、活動が拡大していかない。  
g. その他（具体的に： \_\_\_\_\_）

（2）情報に関する悩みがある

① ない

- ② ある→ a. 活動に参加したい人の情報が得にくい。  
b. 他の団体の情報が得にくい。  
c. 補助金・助成金等の情報が得にくい。  
d. 活動をPRする手段が少ない。  
e. ウェブを利用した情報発信ができない  
f. 他の団体との交流や情報交換の機会がない。  
g. その他（具体的に： \_\_\_\_\_）

（3）お金に関する悩みがある

① ない

- ② ある→ a. 活動資金が不足している。  
b. 活動に必要な機材や道具などを購入できない。  
c. 自主財源の確保が難しい。  
d. 企業からの協賛金が集まらない。  
e. 補助金や受託金の確保が難しい。  
f. その他（具体的に： \_\_\_\_\_）

（4）場所に関する悩みがある

① ない

- ② ある→ a. 会合や活動場所の確保が難しい。  
b. 事務所が確保できない。  
c. 活動用具の保管場所がない。  
d. 事務所が狭い。  
e. 事務所の賃料が高い。  
f. その他（具体的に： \_\_\_\_\_）

(5) その他の悩みがある

- ① ない
- ② ある→
  - a. 活動発表の場所や機会がない。
  - b. 活動に必要な専門知識などを習得する機会がない。
  - c. 活動や運営方法等について外部に適当な相談機関がない。
  - d. 活動へのニーズが減少している。
  - e. 活動に対する社会的評価が低い。
  - f. イベントや事業での効果的な周知が難しい。
  - g. リモート会議やオンラインイベントを行う知識や設備がない。
  - h. 外部協力者、学生ボランティアを活用する方法がわからない。
  - i. その他（具体的に： \_\_\_\_\_）

3-2 あなたの団体（グループ）の活動を、更に発展させる方法についてお聞きします。  
必要と思うものに○印を付けてください（複数可）。

- ① 事務所や活動場所（拠点）を確保する。
- ② 活動に必要な機材や資金を確保する。または協力を得る。
- ③ クラウドファンディングを活用する。
- ④ 行政に関する情報を得る。
- ⑤ インターネットを活用した活動を増やす。
- ⑥ 団体のこと、活動内容、催し、行事などの情報を発信して認知度を上げる。
- ⑦ 活動に参加したい人の情報を得る。
- ⑧ 補助金・助成金等の情報を得る。
- ⑨ 団体相互の情報交換・交流を図る。
- ⑩ 専門的な助言・相談できる人や関係機関とのつながりをもつ。
- ⑪ 研修などで技術や知識を身につける。
- ⑫ 法人格を取得するなど、活動に対する社会的な認知・信用を得る。
- ⑬ 会員や活動協力者等の人員を確保する。
- ⑭ 若い世代に積極的に参加してもらう。
- ⑮ その他（具体的に： \_\_\_\_\_）

3-3 あなたの団体（グループ）の情報発信の方法と頻度についてお聞きします（複数可）。

- ① 会報・パンフレットの発行：年（ \_\_\_\_\_ ）回程度発行
- ② ホームページ・ブログを活用：年（ \_\_\_\_\_ ）回程度更新
- ③ SNSを活用：年（ \_\_\_\_\_ ）回程度更新
- ④ 新聞、地域情報誌等のメディアの活用：年（ \_\_\_\_\_ ）回程度掲載
- ⑤ イベント等での発信：年（ \_\_\_\_\_ ）回程度参加

**4. 「コラボのたね」についておたずねします。**

「市民協働によるまちづくり」を掲げる江別市では、市内で公益的な活動を行っている市民活動団体の情報提供の場として、「コラボのたね」<http://center-i.jp/collabo-tane/>を開設しています。コラボのたねでは、団体の基本情報の掲載はもちろん、団体として発信したい情報（イベント等）を団体自ら掲載することも可能です。これに関して、以下についてお聞きします。該当する番号に○印を付けてください。

- 4-1 「コラボのたね」を知っていますか。  
 ① 知っている ② 聞いたことはあるが内容は知らない ③ 知らない
- 4-2 「コラボのたね」への登録を希望しますか。  
 ① 登録したい ② 既に登録している ③ 登録したくない(4-3へ) ④ わからない  
 ↓  
 市役所市民生活課または市民活動センター・あいにお申し込みください。
- 4-3 登録したくない理由を教えてください。(複数可)。  
 ① 登録の利点を感じないから ② 既に団体にホームページやSNSを持っているから  
 ③ 操作が難しそうだから ④ 登録の手続きが複雑だから  
 ⑤ 登録条件(運営規則など活動目的・内容が記載されている書類が必要)を満たさないから  
 ⑥ その他 ( )

**5. 行政や他団体との協働・連携についておたずねします。**

5-1 行政または他の団体等(他の市民活動団体、自治会、学校などの教育機関、企業など)との協働・連携事例についておたずねします。

- (1) どの程度の協働・連携がありますか。該当するもの全てに○印を付けてください。  
 ① 日頃から組織的に協働・連携している。  
 ② イベント等や必要に応じて、協働・連携している。  
 ③ 依頼があったときに協働・連携をすることがある。  
 ④ たまに連絡や情報交換をする程度である。  
 ⑤ とくに協働・連携はしていない。  
 ⑥ その他 ( )

(2) これまで協働・連携して取り組んだ活動で代表的なものについて、その相手や活動内容を具体的にお教えてください。(協働・連携先については、該当するものを○で囲んでください。)

協働・連携先	具体的な活動内容
行政、市民活動団体、 自治会、学校などの教育機関、 企業、学生(ジモガク)、 その他( )	
行政、市民活動団体、 自治会、学校などの教育機関、 企業、学生(ジモガク)、 その他( )	

4-2 今後、行政または他の団体等と協働・連携して取り組んでみたい活動がありますか。該当する番号に○印を付けてください。  
 また、「ある」と回答した場合、その相手や内容をお教えてください。(※活動の事例については11ページで紹介していますので参考にしてください。)

- ① ある ② ない ③ 要請があれば協働・連携を検討する  
 ↓

相手先と取り組みたい活動内容

## 6. 市民活動の促進についておたずねします。

6-1 市民協働のまちづくりを進めるにあたっては市民活動そのものを推進させる(充実させる)必要がありますが、その際、行政に求めることはありますか。該当するものに○印を付けてください(複数可)。

- ① 学習・会議場所の提供、施設利用時間の延長
- ② 市民が活動を体験できる場や機会の提供
- ③ 活動を推進・促進させる拠点施設の設置
- ④ 行政に関する情報の公開、提供
- ⑤ 市民活動への理解と参加を促すための広報・普及活動
- ⑥ 市民や他の団体等が活動に関して情報が得られる仕組みの整備
- ⑦ 他団体との交流・ネットワークづくり
- ⑧ 能力向上のための研修や講座の開催
- ⑨ 活動に関する相談、助言
- ⑩ 活動に必要な備品や機材の提供・貸出
- ⑪ 活動資金の補助や助成
- ⑫ 事業等の委託
- ⑬ 活動への評価・表彰制度の創設
- ⑭ 市民協働条例の制定
- ⑮ ふるさと納税を活用した団体への寄付
- ⑯ 行政の協力は不要
- ⑰ その他 ( )

市内で活動している市民活動団体が、市民のもとに向いて、それぞれの団体の知識や特性を活かしたお話などをする「市民活動団体版出前講座」についてお聞きします。該当するものに○印を付けてください。

(※ 市民活動団体版出前講座メニュー表は、江別市民活動センター・あい、公共施設、市役所市民生活課窓口のほか、市のホームページで入手できます。)

6-2 「市民活動団体版出前講座」を知っていますか。

- ① 知っている
- ② 聞いたことはあるが内容は知らない
- ③ 知らない

6-3 「市民活動団体版出前講座」への登録を希望しますか。

- ① 登録したい →市役所市民生活課または市民活動センター・あいにご連絡ください。
- ② 既に登録している
- ③ 登録したくない(6-4へ)
- ④ わからない

6-4 登録したくない理由をお聞かせください(複数可)。

- ① 市民を対象とした講座などを行ったことがないから
- ② 出前講座を行うための人員がいらないから
- ③ 出前講座を行う時間がないから
- ④ 登録の利点を感じないから
- ⑤ 既に団体独自で出前講座(出前講座同様のものも含む)を行っているから
- ⑥ 登録手続きが難しそうだから
- ⑦ 出前講座実施時の手続きが難しそうだから
- ⑧ その他 ( )



## 7. 江別市の「協働のまちづくり活動支援事業」についておたずねします。

7-1 江別市では、市民活動団体が市民や地域のニーズに対応した新たな取組みや、これまでの活動を拡大した取組みで、地域の課題解決や活性化が期待される公益的な事業を行う場合に、補助金を交付する「協働のまちづくり活動支援事業」を行っています。この活動支援事業についてお聞きします。該当するものに○印を付けてください。

- (1) 「協働のまちづくり活動支援事業」を知っていますか。  
① 知っている ② 聞いたことはあるが内容は知らない ③ 知らない
- (2) 今後、この事業による支援を受けたいとお考えですか。(既に受けたことのある団体の方は、再び受けたいかどうかについてお聞かせ下さい。)  
① 受けてみたい ② 条件によっては受けてみたい (→(3)へ)  
③ 受けたくない (→(4)へ) ④ わからない
- (3) どのような条件があれば、受けてみたいですか。  
① 補助を受ける前年度に選考を行って決定し、4月から補助対象とすること。  
② 年に2回(2月・6月)申し込み期間があること。  
③ 補助金の上限額を上げること。( 万円くらい)  
④ 補助率を上げること。(事業費の %くらい)  
⑤ 新たな取組みではなく、既存の継続的な取組みも対象とすること。  
⑥ 申請や審査の手続きが簡単であること。  
⑦ 取組み以外に団体への補助金があること。  
⑧ その他 ( )
- (4) 受けたくない理由をお聞かせください。  
① 申請手続きや領収書の管理などが面倒だから  
② 活動期間が補助対象期間外だから  
③ 補助金の上限額(または補助率)が低いから  
④ 新たな取組みがないから  
⑤ 人前でプレゼンテーションを行うことが苦手だから  
⑥ 備品購入費や食糧費に制限がありメリットが少ないから  
⑦ その他 ( )

**8. 市民活動・協働を促進する施設についておたずねします。**

8-1 市民活動の促進を目的に、関係団体間の情報交換や学びを行う「場」として、「NPO法人えべつ協働ねっとわーく」が運営している「江別市民活動センター・あい」（市民交流施設 ぶらっと内）についてお聞きします。該当するものに○印を付けてください。

(1) 利用状況についてお伺いします。

- ① 利用したことがある    ② 今後、利用してみたい    ③ 利用は考えていない

(2-1) 上記(1)で「利用したことがある」と答えた方にお聞きします。

どのようなことで利用されましたか（該当するもの全てに○印を付けて下さい）。

- ① 会議室の利用    ② 交流会の参加    ③ 講演会・講座・研修会の参加  
④ 活動等の相談    ⑤ 印刷機・コピー機等の使用    ⑥ イベントの開催  
⑦ WEB・ポスター・チラシの配架    ⑧ 収納スペースの活用    ⑨ その他

(2-2) 利用頻度についてお聞きします。

- ① 週に1～2回程度    ② 月に1～2回程度    ③ 年に3～4回程度  
④ 年に1～2回程度    ⑤ 数年に1回程度

(2-3) 誰もが気楽に利用できる場となっていると思いますか。

- ① 思う    ② 思わない

(2-4) 上記(2-3)で「思わない」と答えた方にお聞きします。

そう感じた理由をお聞かせください。

(3) 利用に関して配慮してほしい点など要望があればお書き下さい（開館時間、料金、窓口対応等）。

(4) 上記①で「利用は考えていない」と答えた方にお聞きします。

今後のセンター運営をよりよいものとするため、理由をお聞かせください。

- (5)「NPO法人えべつ協働ねっとわーく」は市内で活動する団体の中間支援組織として、「市民活動センター・あい」の運営を通して、団体の設立や運営などに関する相談や支援を行っています。その他に、あなたの団体（サークル）が活動を進めるうえで、さらに期待することはありますか。

#### 9. 認定NPO法人制度についておたずねします。

NPO法人のうち、一定の要件を満たす法人は、所轄庁（都道府県又は政令指定都市）から認定され認定NPO法人となることで、税制上の優遇措置を受けることができます。

また、認定NPO法人に寄附した方にも税制上の優遇措置（寄附金控除対象となる）があります。

この認定NPO法人制度は、NPO法人への寄附を促すことにより、NPO法人の活動を支援することを目的としています。

- 9-1 認定NPO法人制度を知っていましたか。該当するものに○印を付けてください。  
① 知っていた ② 聞いたことはあるがよく知らない ③ 全く知らなかった
- 9-2 認定法人への寄附に伴う税制優遇措置の拡大等がなされましたが、これによる寄附に対する考え方についてお聞きします。該当するものに○印を付けてください。

- (1) 認定NPO法人への寄附に興味がありますか。  
① 興味がある ② 興味はない（→(2)へ） ③ わからない

- (2) 興味がない理由  
① 認定NPO法人のことを良く知らないため  
② 寄附は認定NPO法人かどうかではなく、活動内容によって決めるため  
③ 寄附金の還付率が低い  
④ 寄附そのものに興味がないため  
⑤ その他（ )

## 10. その他

10-1 江別市では、「広報えべつ」にて、身近で行われている協働のまちづくり活動を紹介する記事を掲載しています。あなたの団体が行っている活動を紹介してもよろしいですか。該当する番号に○印を付けてください。

① ぜひ紹介してほしい ② 紹介してもよい ③ あまり紹介してほしくない

10-2 市では、新しい市民活動団体(グループ)の情報を集めています。最近一年以内に発足した、あるいは、これから発足しようとする団体をご存知でしたら、是非ご紹介ください。

団体名：

代表または連絡者氏名：

連絡先：電話 (       )       -  
Eメール                               @

活動内容：

10-3 その他、お気づきの点や、市民活動や協働の促進に関する要望等(研修会等の開催希望テーマを含む)がありましたらお書き下さい。

※以上でアンケートは終わりです。ご協力ありがとうございました。

同封の返信用封筒にて 1月 31日(月)までにご返送ください。  
(※ 未回答の設問があっても構いません。)

**別紙**

※協働の取り組みを考えるときの参考として、全国の活動事例を紹介します。

**【市民活動の事例】**

保健・医療・福祉の分野	高齢者・障がい者の介護、難病者の支援、高齢者への給食サービス、アルコール・薬物依存者へのケア、共同作業所、禁煙権の運動、高齢者・障がい者の移動サービス、自然食の生産・販売、救急医療の普及、聴覚障がい者への点字・手話・声のボランティア、自立生活・作業所の支援、障がい児保育、病気の予防グループ
社会教育の分野	消費者保護・教育、生涯学習の支援、高齢者海外学習の支援、高齢者大学の運営
まちづくりの分野	歴史的建造物の保存、地域おこし、情報誌の発行、まちの清掃活動、フラワーガーデン運動、都市と農村の交流、コミュニティづくり、地域産業の活性化、地域振興、自治体のオンブズパーソン(行政監査)
文化・芸術・スポーツの分野	民間博物館、スポーツイベントの支援、伝統文化の継承、美術館解説ボランティア、市民オーケストラ、スポーツ指導(教室)、演劇鑑賞会、芸術家の支援、映画の上映会
自然・環境保全の分野	動物愛護、野鳥の保護、樹木の観察、森林保全、河川の浄化、再生紙利用、ナショナルトラスト(自然・建造物の保全)、リサイクル運動、住環境の保全
災害救助、地域安全の分野	自然災害の救助、人的災害の救援、災害被害者への支援、災害の予防活動、交通安全活動、犯罪の防止活動、犯罪者の社会復帰支援
人権擁護、平和推進、国際協力の分野	差別に対する活動、子どもの虐待防止、家庭内暴力からの保護、SOGI 啓発・LGBT 等性的少数者支援、ホームレスの生活支援、法律相談、国際交流活動、難民支援、在日外国人の生活支援、留学生支援、日系外国人の帰国者支援
男女共同参画社会形成、子どもの健全育成の分野	女性の自立支援、女性の地位向上、女性の働く環境をつくる運動、セクシャルハラスメントを防止する活動、女性の雇用均等を求める活動、家庭内暴力防止センター、シェルターハウス(一時保護施設)、遊びの伝承、非行防止、本の読み聞かせ会、ボーイスカウト、ガールスカウト、不登校児支援(フリースクール、親の会)、いじめ問題 110 番、命の電話、託児所、地域の子ども会、地域の子育て支援、地域食堂、子ども食堂、学童保育、グループ保育
市民活動支援の分野	市民活動サポートセンター、市民活動への助成、民間助成、ボランティアセンター、市民活動にインターネット利用を進める活動、市民団体の立法支援、善意銀行、市民バンク(市民活動への融資)、企業・自治体への市民活動の紹介、市民活動の情報提供